

帝都將棋倶楽部編  
やさきり將棋の覚え方

特 258

981

始



特258  
981



序

棋道の流行は今やその極に達せり。然れども、棋道に入らんとする初心者の爲めに著はせし研究書は甚だ少なし。本書は専ら「將棋を志す人々の爲めに」編したものであるから、棋道の奥義を加味して、その論説と解義とを系統的に秩序按排したれば、書中局面圖を懇切に表はし、將棋の手ほどきより説き起し、駒の利き道、術語、用語等は勿論、駒組やさては六枚落、四枚落、二枚落、飛香落、飛車落、角落までの心得から變化に至るまで順次に解説したれば、少なくとも初心者をして、棋道を修得する上に於て便なること、信ずる。

要するに本書は、初心者の意を汲んで、在來の棋道書の缺點を補ひ、



成るべく會得し易く編纂したれば、本書を熟讀翫味すれば、その進達は速かであり、また以て技の研鑽の一助ともせられんことを望むのである。

昭和三年四月

著者しるす

目次

将棋に上達するには……………	一
駒の利き道と列べ方……………	三
駒が化ると云ふこと……………	七
心得ねばならぬ規定……………	九
将棋の術語……………	二一
段割、段の名稱、駒割……………	二五
将棋の用語……………	二八
駒の働らきに就いて……………	三三
将棋駒組秘訣……………	三三
駒組大法……………	三四
初學の人の爲めに……………	三六
◎相懸り……………(二七)	
櫓圍……………(三〇)	
袖飛車……………(三三)	
石田指し方……………(三五)	

# わかりやすき 將棋の覺え方

帝都將棋俱樂部編

## 將棋に上達するには

將棋に指を染めて其の趣味を解し、面白味を覺えた人は、皆少しでも強くなりた  
 と思ひ、そして何うすれば強くなれるかの手段を、先輩者に問ふのが常でありま  
 す。然るに其の答へは、指せば強くなると云ひます。然し、上達する近道と云つて  
 別段に變つた手段もありませんが、各自が一日の餘暇に將棋を研究する心なれば、  
 其の餘暇の長短に依つて或は定跡を調べ、また古人の指し將棋を試み、或は一  
 局の詰めを研究するので、謂はゞ氣の脱けたやうに日一日と研究するが上達の道で

角	飛	飛	二	四	六	角	角	左	香	美濃園
落	車	香	枚	枚	枚	落	落	香	車	……(三八)
落	落	落	落	落	落	落	落	落	落	中飛車
落	落	落	落	落	落	落	落	落	落	……(四〇)
落	落	落	落	落	落	落	落	落	落	向飛車
落	落	落	落	落	落	落	落	落	落	……(四三)
落	落	落	落	落	落	落	落	落	落	雁木
落	落	落	落	落	落	落	落	落	落	……(四四)
落	落	落	落	落	落	落	落	落	落	三筋
落	落	落	落	落	落	落	落	落	落	……(四六)
落	落	落	落	落	落	落	落	落	落	……(四六)

——(畢)——

ありませう。

亦含みのある手を賞美します。含みの中の含みといふ事があります。直に手酷く當る手は面白くありません。それは餘りに却つて敵に考へ込まれ、反對に勢を増させる種になります。ぼんやりとした手に妙味があつて、今はこたへぬと思つても末に必ず利のある手を工夫したいものです。大體將棋には進む手があり、退く手があり、餘り強く指すも悪く、弱いのも見苦しいもので、その一進一退の呼吸が大事であります。

これ等の呼吸が即ち將棋の秘訣であります。定跡を調べる際は勿論、古人の指し將棋に就ても、自分なれば此の銀は斯う進むに、何故に古人は退いて居るか、この桂は少し早過ぎるやうに思はるゝが、何故に今打つか、何故に飛び上るか、その一進一退に注意して調べれば、必ず其の遲速の妙を覺り得るのであります。

猶注意を申しますと、詰め將棋を試みる時に度々駒を動かすは頗る悪いのであり

ます。その詰むと定まつた手数をよみきるのが、詰將棋の眼目で、謂はゞ實戦に於て指手の手数をよみきる稽古をするのであります。實戦に於て駒を置き直すことを許さぬ限りは、その手数をよみきる頭腦を平素に養成せねばなりません。即ち駒を動かさずに手数をよみ切つて詰めるのが其の練習であります。又一方實戦に於て盤面も次第に狭くなつて、この模様なれば詰むか、若しくは必死のあるものと思念すれば、必ず詰めのあるものと断定して其の手数をよみ、どうしても詰めがなければ必死の手数をよみ切つて見るので、こゝが勝敗の分け目であります。

その手数をよみ切るといふは容易の事ではない。平素詰め將棋、必死に就いて深く練磨の功を積むのが肝要であります。

### 駒の利き道と列べ方

將棋の駒は全體で四十個ありまして、これを双方に分けますから、一方が二十個

(圖合符駒成)

飛は	角は	銀は	桂は	香は	歩は
龍	馬	金	金	金	と

(號符面盤)

香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香
九ノ一	八ノ一	七ノ一	六ノ一	五ノ一	四ノ一	三ノ一	二ノ一	一ノ一
九ノ二	八ノ二	七ノ二	六ノ二	五ノ二	四ノ二	三ノ二	二ノ二	一ノ二
九ノ三	八ノ三	七ノ三	六ノ三	五ノ三	四ノ三	三ノ三	二ノ三	一ノ三
九ノ四	八ノ四	七ノ四	六ノ四	五ノ四	四ノ四	三ノ四	二ノ四	一ノ四
九ノ五	八ノ五	七ノ五	六ノ五	五ノ五	四ノ五	三ノ五	二ノ五	一ノ五
九ノ六	八ノ六	七ノ六	六ノ六	五ノ六	四ノ六	三ノ六	二ノ六	一ノ六
九ノ七	八ノ七	七ノ七	六ノ七	五ノ七	四ノ七	三ノ七	二ノ七	一ノ七
九ノ八	八ノ八	七ノ八	六ノ八	五ノ八	四ノ八	三ノ八	二ノ八	一ノ八
九ノ九	八ノ九	七ノ九	六ノ九	五ノ九	四ノ九	三ノ九	二ノ九	一ノ九
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香

づゝであります。

即ち右圖の通りの列へ方でありまして、この駒の中で取ることの出来ぬは玉ばかりであります。外の駒は取つてから又自分の方へ用ひることが出来ますから、戦つてゐる中には一方が多く、一方が少なくなる事もあります。玉は取れません代りに敵の玉が逃げ場が無くなれば自分の勝で、自分の方の玉が動けなくなれば負けであります。

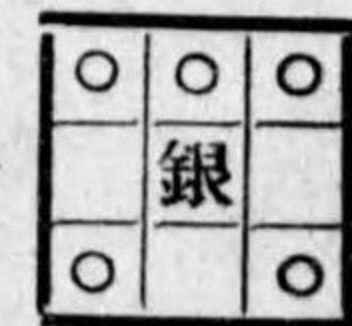
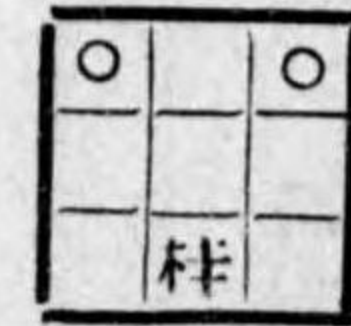
駒の名稱は玉將(きよくが正しけ)金、銀、桂馬、香車、角行、飛車、歩兵(ふと)の九種でありまして、其の數は金が四枚、銀が四枚、桂馬が四枚、香車が四枚、歩が十八枚、飛車が二枚、角行が二枚と、これに玉將が二枚ありまして、これを双方へ半分づゝ、圖のやうに列べるのであります。

その利き道は、玉は横縦十文字即ち八方へ一つ宛進退します。金將は略して金とのみいひ、その利き道は前の三方と横の兩方と下の一方六個所へ一つ宛利きますが

下の方左右斜めには利きません。

●銀將は略して銀と云ひます。その利き道は、前の三方と下の斜めに二方へ一つ宛で、横と下の真直へは利きません。即ち下圖の通り五方だけで、金より少し位が落ちます。

●桂馬は略して桂とのみ云ひます。その利き道は、下圖の通り上の方へ一間飛んで斜めに利きますが、外へは利きませんから、その頭へ歩を打たれて取られる事があります。



●香車は略して香とのみ云ひます。その利き道は、真直に堅に何處までも利きますが後へは戻れません。勿論何處までも行つて敵の何物かに衝當れば敵を斃します。けれども味方の何物をも追ひ越すことは出来ません。

●飛車は堅と横とは前後左右何處までも利きます。即ち十文字に近くへも遠くへも行きたい所へ行かれます。

●角行は略して角とのみ云ひます。斜めに後先へ何處までも行きます。即ち飛、角

の圖は



この線の通りであります。

●歩兵は略して歩とのみ云ひます。前へ一つしか利きません。

### 盤面圖に就いて

前述の所に盤面圖を掲げて置きました。本當の盤面には數字は書いてありませんが、これは便宜上指し手を數へる時の符牒を定めて置きまして、その符牒に依つて將棋を並べて見ることが出来るやうにしておいたのであります。

駒が化るといふこと

駒が化るといふことは、飛角銀桂香歩は一度敵の陣中即ち向ふの三段目まで進入する時は、位が進んで利き道が廣くなりませぬのを云つたものであります。但し化ると化らぬのは自分の勝手で、幾ら敵中へ入つても、その場合化つては却つて都合の悪いと思ふ時は、化らなくとも宜しいのであります。然して化つた時は駒を裏返して置きます。この化つた後の名稱と利き道は、

●飛車は龍王、略して龍と云ひます。この利き道は化らない時のやうに縦横に何處までも利く上に、四角へ一間づゝ利きます。

●角行は龍馬、略して馬と云ひます。この利き道は四角へ何處までも利く上に前後左右へ一間づゝ利きます。

●銀は化つて金と同じことで、裏には「金」と書いてあります。

●桂は化つて矢張り金と同じことで、裏には「金」と書いてあります。

●香も同様で、裏には「金」と書いてあります。

●歩も同様で、裏には「と」と書いてあります。

前述の化れる處へ行つても化らぬと云ふ譯は、化つては敵の玉を歩づめにする場合とか、玉手をかけるに都合の悪いとか云ふ時に、化らずに居るのであります。又駒を取ると云ふことは、敵の駒が自分の駒の利き道へ来た時には、これを取つて自分の駒を其處へ持つて行くのであります。敵の駒が來ても必ずそれを取らなくてはならぬと云ふではありません。これ等は後述に譲ります。

### 心得ねばならぬ規定

將棋を指すには種々の規定を心得て置かねばなりません。それは何かと云ひますと、

敵の玉將を歩づめにしてはなりません。敵の玉を追ひ詰めた時に、頭へ歩を打てば、それで敵の玉が行き所がなくなつて、即ち詰みとなることもあります。それ



は禁じてあります。何故かと申しますと、歩は身分卑しき歩卒でありますから、直に玉の頭へ向つて、玉の首を取ることは戒めてあつて、打ち歩では詰められぬのであります。

この歩が化つて金の位に昇つた歩とか、又突き歩と云つて盤に並んで居た歩を突き出して玉將を詰めるのは許してあります。これは戦功を立てたからであります。二歩は打てません。同じ縦の筋へは歩を二つ以上重ねて打つことが出来ません。但し一つの歩が化つてゐる場合には、それは金ですから打つても差支ありません。行き道の無き處へ桂、香、歩を打てません。この三つの駒は敵陣の中へ打ち込む時には、最早其の先が留まつてゐて、打つた丈で動かす地の無き處へは打てません。即ち桂は敵陣の二段と一段へ、香、歩は一段へ打てぬのであります。よつて自分の玉將が敵陣へ入り玉となつた時に、敵から飛角の中で遠くから玉手をかけられた時に、外に間駒がなく、桂、香、歩はあつても動かす地がなき時は、これを間駒に打

つことが出来ず、その儘負けとなることがあります。

千日手を禁ず。敵の玉を詰めやうとする時とか、其他でも此の手が一番利益と思つて指す手を敵が防いで駒を取つたり遣つたりして、同じ手を繰り返すやうな事がある。これを千日手と云ひます。何時までやつても果しがないからであります。斯ういふ時は、攻める方で三度目には外の手を指すのが定法であります。攻められる方では何度でも差支ないので、これは防ぎの爲め據ないのであります。攻められる方は手段を替へなくては卑怯ですから、三度以上は同じ手を禁じます。

### 將棋の術語

先手、後手 まづ駒を盤に並べてから先に指し始める人を先手方と云ひ、次に指す人を後手方と云ひます。同じやうの力の人では二番以上指さうと云ふ時には、相對で先手後手を定め、一度は甲が先手を指し、二度目には乙が先手を指し、斯くし

て互ひに先手を指しますから、これを互先と云ひます。併し双方が謙遜してゐては果しがありませんから、其時は駒を振つて先手を定めるのであります。謙遜して先手を指すと云ふのは、一手でも先に指させて貰ふのは、自分の方が少し弱いといふ意味でありますから、先手を指すといふのは謙遜の言葉であります。何うかすると此の意味を間違へて、『サア何うかお先きに』などと云つて、先手を譲るのを禮儀のやうに思つてゐる人もありますが、これは却つて無禮に當るのであります。

さて駒を振ると云ふことは、甲乙がまづ『私は歩』とか『私は金』とか言つて約束を定め、それから一人が歩を三つ握つて、これを盤の上にバラ〜と振ります。さうして駒の表が二つ又は三つ出ますと、始めに歩と言つた方が先手を指し、又駒の裏が二つ又は三つ出た時は、始めに金と言つた方が先手を指すのであります。

また此の駒を振るに、始めに金歩と約束をせずに振つても、駒を振つた人の方は表で、振らぬ人の方は裏に當ることに定まつてゐる。これを『ふり歩』と云ひます。

●平手、駒落 ●甲乙ともに同じ力と定まつてゐる時は、盤面へ双方二十個づゝの駒を全部形の如く並べ、對等で指しますから、これを「平手」と云ひます。然るに誰れでも同じ力と云ふ譯にまゐりませんので、強いと弱い人とが指す場合には、強い方が駒を一つなり二つなり、其の強いだけ落して指します。これを「駒落」と云ひます。その駒を落す順序は左の通りであります。

●香落 ●強い方が香車を一枚抜いて指します。香落は右を落す時と左の落す時とありますが、現今では大抵左の香車を落すことになつて居ります。これは右の方に飛車が居るために、落された方が利益が少ないのと、左香落の方が興味の多き指し口となりますので、自然右香落が廢れて左香落の方が流行して來たのと思はれます。昔は右と左と交る〜落したやうであります。右香落の方は平手と、左香落の間ぐらゐの力の違つた手合せに指しました。

●角落 ●これは説明するまでもなく、強い方が角を落すのであります。これを俗に

大駒落と云ひます。

飛落 これも飛車を落すので、これも大駒落であります。

飛香落 これは飛車と左香の二つを落すのでありまして、一名を一挺半落とも云ひます。一挺とは飛車のこと、半とは香車を云ふのであります。

二枚落 飛車、角行の二枚を落すのであります。

三枚落 飛車、角行と香車一枚を落します。

四枚落 飛角と兩香を落します。

五枚落 飛角兩香と一つの桂馬を落します。

六枚落 飛、角、兩香、兩桂を落します。

これ以上落すのもありますが、それでは最早興味がありませんので、將棋を指すといふ部に入りませんから、大抵は六枚落より外は指しません。

### 段割、段の名稱、駒割

一段の差 初段と二段の指す時は「香平交」とも「半香」とも云ひます。二番を一組として始めに香落を指し、次には平手(一段低き方が先手)を指しますから、香平交と云ひ、二番の中で一度香を抜きますから、半香とも云ふのであります。

二段の差 左香を落しますから略して香落と云ひます。

三段の差 香角交と云つて、一度は角を落し、一度は香車を落します。二番一組で香角を交るゝ落しますので香角交の名稱があります。

四段の差 角を落しますから角落と稱へます。

五段の差 飛角交と云つて、一度は飛車を落し、一度は角を落し、二番一組で飛角を交るゝ落しますから此の名稱があります。

六段の差 飛落、即ち飛車を落します。

(圖の落駒位段)

										九段 名人
									香車 平交手	八段 半名人
								香車	同上	七段 上手
							角行	同上	同上	六段 上手開手合
						角車	同上	同上	同上	五段 上手並
					飛車	同上	同上	同上	同上	四段 強片馬
				飛車	同上	同上	同上	同上	同上	三段 並片馬
			飛車 一枚半	同上	同上	同上	同上	同上	同上	二段 手直り
香車	飛車	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	初段 手直り

七段の差「飛半」と云ひます。飛とは飛車落と云ふこと、半とは一挺半の略語で即ち飛車、香車の二枚を落したことであります。故に「飛半」と云ひますと二番一組で一度は一挺半を指し、一度は飛車落を指し交るゝ指すのであります。

八段の差 一挺半、即ち飛車と左香を落します。

九段に對して飛角二枚を落される中は段に入ることが出来ません。故に二枚落以下は駒割が定まつて居りません。勝手に其の力によつて幾枚でも落すのであります而して駒を落した方を「上手」と云ひ、落された方を「下手」と云ひます。

一局中の順序 一局指して居る中にも普通の稱へ方があります。まづ最初双方が指し始めて駒組が出来上がるまでを「序盤」と云ひ、それから双方の駒組が出来上つて愈よ戦端を開くのを「分れ」と云ひ、戦ひ既に閑にして互ひに入り亂れて攻めつ攻められつして居る時は「中盤」と云ひます。いよゝ敵の玉將を追つて次第に終りに近づくのを「寄」と云ひます。敵の玉將を行き所のないやうにして勝つた時

を「詰」と云ひます。

### 將棋の用語

將棋に用ゆる語辭は前述しましたが、それより少し軽く單に其處だけに用ふる語があります。

- 筋 手筋の略語で「本筋」を指したと云ふ譽め詞であります。それに反してメチヤクチャの手を指せば「無筋」と云ひます。
- 落手 これは見落しで浮と悪い手を指した時の詞であります。
- 頓死 これはまだ詰まぬと思つて敵を攻めて居る中に、急に自分の玉が詰められる手があつて、負けになります。
- 傷み これは駒を落して指す時などに、その駒の無い手薄い處から攻めるを傷みを指すとも傷みを指されるとも云ひます。

○質駒 敵の駒を何時でも取れるが、イザ必要の時まで取らずにゐて、其の駒を取れば最早敵を詰める道具となる場合に至り、飛車でも角でも切り棄て、其の駒を取らうと質に取つたやうにして置くのであります。

○逃げ越 玉將が其儘居ては危いと考へた時に、玉手のかゝらぬ中に先に逃げてゐるので「逃げ越し八手の徳あり」など云つて、場合によつては好き手であります。玉ばかりでなく飛、角なども逃げてゐる事があります。

○繋ぎ すべて駒と駒との連絡をつけて置いて、一つ取られる時は此方でも一つ取るやうにして置くのを繋ぎと云ひます。

○素抜 繋ぎのないために只取られる事になるのです。

○間駒 飛、角、香で遠くから玉手を指された時に、その道へ駒を打つて遮るのを間駒と云ひます。時に依つて中途へ間駒して、わざと之を取らせてから、二度目に玉の傍へ間駒することがあります。その中途に間するのを「中間」と云つて、これ

には面白き手があります。

○遊あそび駒こま 戦せん闘たうの局きよく面めんへ遠とほざかつて役やく目めに立たたぬのを遊あそび駒こまと云いつて、成なるべくこ  
れの出で来きぬやうに、全ぜん部ぶの駒こまを活くわ用ようするのが利り益えきであります。その反はん對たいに成なるべく  
敵てきの駒こまを遊あそばせるやうに、わざと歩ふなどをくれて、その歩ふを取とつた駒こまを遊あそばせるの  
が巧たくみと云いふのであります。

○よる 横よこに動うごくのを云いひます。

○すぐ 真ま直ちやくに出でるのであります。

○飛とぶ 桂けいの跳はねるのを云いつて、外ほかの駒こまには飛とぶとも跳はねるとも云いふことはありま  
せん。

○走はしる 香かう車しゃに限かぎります。

○突つく 歩ふに限かぎります。

○引ひく これは何なにの駒こまでも後うしろへ下くだることを云いひます。

○打うつ これも玉たま將しょうの外ほかは何なにの駒こまでも手てにあるのを盤ばんへ打うつことでもあります。

○取とる 自じ分ぶんの駒こまで敵てきの駒こまを取とることです。

○出でる 前まへに進すすむ時ときのことでもあります。

○化なる 敵てき陣じん即すなはち向むかふの三さん筋しん中ちゆうに入はいつた時ときに、駒こまを裏うら返かへして出し世せするのを云いひます  
また三さん筋しん中ちゆうへ打うつて之これを動うごかす時ときにも化なれます。

○兩りやう玉ぎよく手てと明めい玉ぎよく手て 一ひと時じに二ふたつの駒こまで玉たま手てをかけることがある。これを兩りやう玉ぎよく手てと云い  
ひます。又また間まに居ゐた駒こまが動うごくため、遠とほくに居ゐる飛ひ、角かく、香かうより自し然ぜんの玉たま手てにかゝる  
ことがある。これを明めい玉ぎよく手てと云いひます。

○けれん これは敵てきに利えき益えきのやうに見みせかけて却かえつて敵てきを不ふ利りに陥おとれるので、即すなはち「はめ手て」であります。

○必ひつ死し これは直ちやく接せつに玉たま手て々々と攻せめず、一ひと手てすき／＼に攻せめて行いくので、敵てきは  
どうしても防ぼがず居ゐられぬことになり、終つひに詰つめられてしまふのであります。俗ぞく

に云ふ「待駒」の如きものであります。また此の必死をかければ敵の玉が動けぬのでありますから「縛り」とも云ひます。

○持駒 盤面に無く、手にある駒を「持駒」と云ひます。これは敵から取った駒で無闇に打たずに必要を待つて打たねばなりません。

### 駒の働きに就いて

●金は餘り進んで行かずに成るべく自陣の守りにして置くのが宜しい。この駒は餘り進むと退くに困難ですから、不利に陥ります。玉を守るにも玉を詰めるにも金は必要ですから、容易に玉の側を離れぬやうにします。

●銀は戦闘員です。歩の衝突の後には銀が繰出します。

●桂は敵陣を破壊するにも玉を詰めるにも特別の働きをします。この駒は頭の先へ利きませんから、餘り出過ぎるのは宜くありません。桂馬の禪といふことがあり

ますが、これは素人の喜ぶ手です。これは考へるものです。

●香は成るべく敵の方へ打つて廣く利益する事を考へなくてはなりません。これは時によつて飛車の代りをします。

●飛車は敵陣に入つて働くに利きます。

●角行は前へ引いてゐて働くのが利があります。

●歩の利用法は最も廣いのであります。

### 將棋駒組秘訣

名人に駒組なしと昔から云ふのは、悉く末を知つて敵の虚實を計り、虚があれば即ち其處に進み、進むうちにも内を圍ふ故に外實にして虚なく、駒自由に働きます。上手は悉く末を知ること難し、只當然を以て駒組の法を調ぶに勿論自由に働くこと雖も、末に差支へあること多し、修行にあらざれば末まで知り難し。然れども其の

變を知ること早くして、駒に組替ゆるなり。下手は駒組の法を知らざる故駒不自由なり。況んや變に向ふ時は之を知らざる故、急に組替ゆることもなり難く、いよいよ不自由になり差支へ多し。これに依つて未熟の爲めに駒組定法の變を記す。

### 駒組大法

- 玉は早く要害の地を選び片付くべし。
- 玉の脇金銀護衛を忘るべからず。
- 金銀歩の頭上ること見合すべし。金は進むこと早く退くこと遅し。
- 桂の飛び見合せ肝要なり。遅き時は勝少なし、早き時は損となる。
- 相手の歩切見遁すべからず。歩二つより大切にすべし。
- 飛角の捨て場肝要なり。
- 龍馬は手前にて使ふに利あり、龍王は敵地にて使ふに利ありとす。

- 玉の逃げ越し名手なり。
  - 持ち駒は諸方に當りて含んで打つべし。
  - 駒つなぎ肝要なり。
  - 玉を攻むる場合持駒と敵手の當り駒に注意すべし。
  - 總じて五筋三筋二手あること多し、殊に五五の場所は關ヶ原とす。
  - 駒打ち込みて取らぬこと勘考すべし。
  - 進んでは其駒にて前を圍ひ、前を圍ひては仕掛ること駒組の大意、上手の能なり
  - 敵を敗らんとせば先づ陣中を固くして進むべし。
  - 駒組は定法を離るべからず。
  - 同じ手三度に及ぶ時は仕掛けよく變るべし、これを千日手と云ふ。
  - 端の歩は濫りに突くべからず、手遅れになることあり、
- この駒組大法は古來名人上手の矜式とする處ですから、この大法を暗記して一手



一手よく考へたト指したならば、決して敗戦をとるが如き事はないのであります。

初學の人の爲めに

初歩の人のために附記しておきますが、平手の駒組は左の數種が普通に行はれて名のあるものであります。

相懸り、二十八手組、櫓圍、石田、美濃圍、四間飛車、向飛車、袖飛車、中飛車、雁木、居飛車、三筋

大體は右の如きものでありますが、これが又種々に枝が出まして、例へば相懸りの中にも「横歩取り」があれば、櫓にも「相櫓」「櫓崩し」など、云ふ名稱があると同様に何れにも異なつて駒組があります。されど、それは中途よりの分れで、始めの駒組は大略左に記した如きものであります。

○相懸り

- △七六歩 ▲三四歩 △二六歩
- ▲八四歩 △二五歩 ▲八五歩
- △七八金 ▲三二金 △二四歩
- ▲同歩 △同飛 ▲八六歩
- △同歩 ▲同飛 △二六飛
- ▲二三歩 △八七歩 ▲八四飛
- △四八銀 ▲六二銀 △五六歩
- ▲五四歩 △六九玉 ▲四一玉
- △五九金 ▲五一金 △三六歩
- ▲七四歩

九	八	七	六	五	四	三	二	一
香	桂		銀	王	銀	桂	香	
歩			歩		歩	歩	歩	
	飛	歩		歩	歩			
		歩		歩		飛		
歩	歩		歩		歩		歩	
	角	金			銀			
香	桂	銀	玉	金		桂	香	

▲下手方

右の通りに双方が同じやうに駒を組み上げますから相懸りと云ひますので、平手将棋は此の相懸りが一番正しきものとしてありますから、第一番に出したのであります。以上が双方合せて二十八手ありますから、之を二十八手組とも云ひます。最も二十八手組と別に名稱を附けたのもありますから、此の相懸りは單に相懸りとのみ云つて置きます。

茲で初めて稽古する人に注意して置きますが、将棋は先づ始めに角道を明け、次に飛車道を明けるのが普通でありますから、どの将棋でも先手はまづ「七六歩」と突きます。次に飛車を他へ廻つて指さうと云ふ時は格別の事でありませんが、居飛車で指さうとする時は、二六歩と飛車先の歩を突くのであります。之は戦争にたとへて見れば飛、角は大砲でありますから、大砲の筒先は早く敵に向けて置くのが法であります。それで後手方も「三四歩」と角道を明けた時に直に先手から「二二角ナル」と角を取りかへるのが素人に能くありますが、然うする時は後手が「同銀」と角を取つ

て上りますので、後手の方が銀の上つた丈一手徳となり、忽ち後手が先手となりますから先手方は損であります。最も其の取つた角「四五角」と打ち込んで左の「六三」へ化らせなければ「三四角」と云つて歩を一つ儲けやうと云ふ考への人もあります。之を「筋違角」と申しますが、敵に同じやうに指さるゝ時は矢張り同じ結果で、後手に銀の上られた丈が損の手となるのであります。又後手方は「四四歩」と角道を留めて指すこともありますが、之は樽圍ひか四間飛車に廻はらうとか何とか外の手を指す時の事でありませんが、先手方は「六六歩」と角道を留めることは少く、關根名人などは嚴しく此のことを咎めます。

さて前段の如く双方二十八手の駒組が出来上りました後に、先手より仕懸けますのに色々ありまして、之を一々説いて居ては、それだけで一冊の本になりますから此處には其の一例を擧げること致しませう。

二十八手の駒組が出来まして互に桂馬を上り、先手は仕懸けとして「三三歩」の打

込みが普通となつて居ります。即ち左の如く、

△三七桂 ▲七三桂 △三五歩 ▲同歩 △三三歩 ▲同金 △同角 ▲同角 △二三飛 ▲三二銀  
 △三三龍 ▲同銀 △二二歩 ▲四四銀 △二二歩

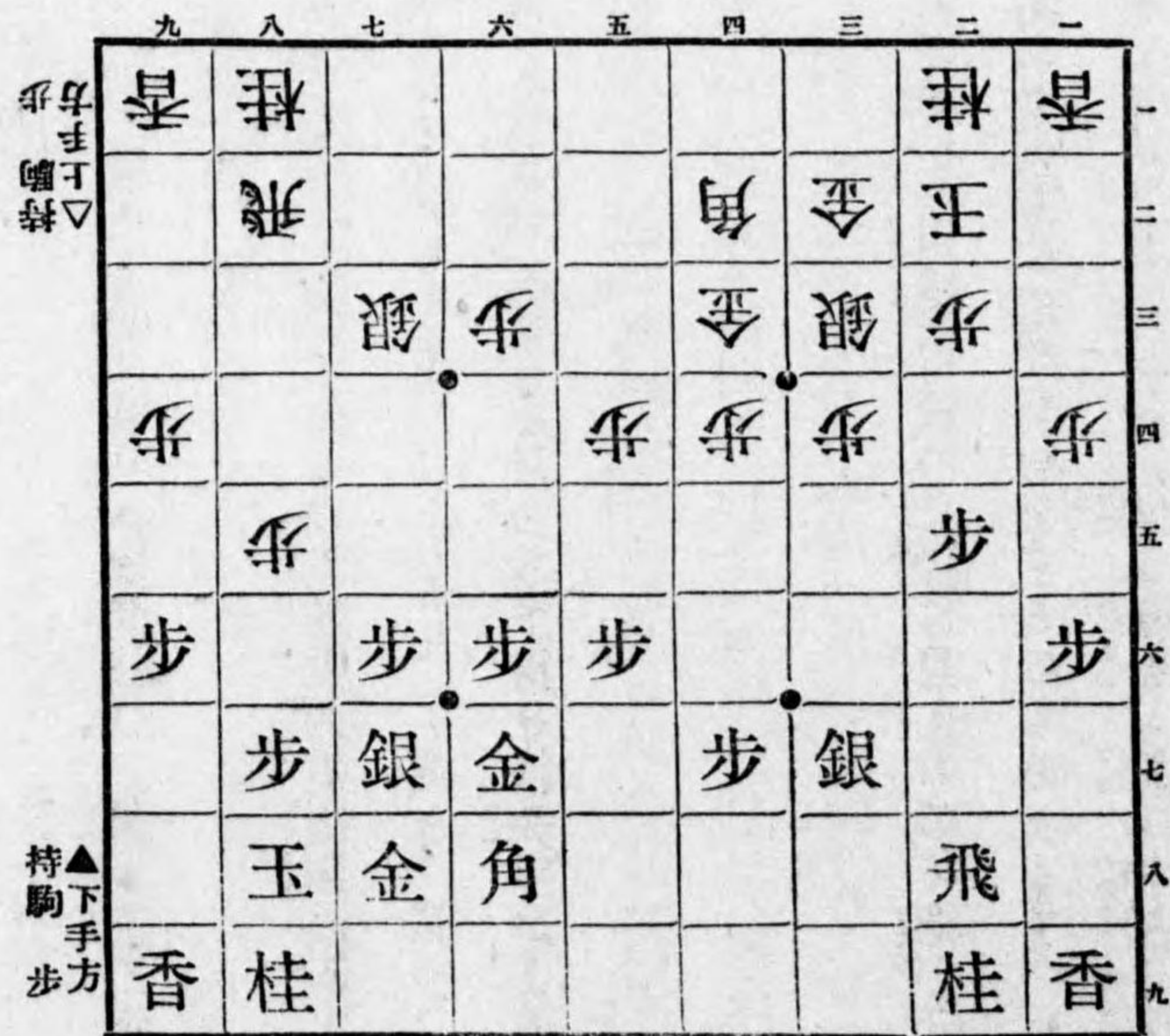
之れまでが分れでありまして、此の後は色々の變化があつて其の人の技倆に依ります。又「三三歩」の打込みを同金と取らずに同桂と取れば「五五歩」と突き、同歩、同角として歩を一ツ手に持ち「三四歩」と桂の頭へ打ち込め含みで指せば先手がよろしいとしてあります。

櫓 圍 (又は相櫓)

櫓圍ひとは玉將を金、銀で圍んで其の形が櫓の中に籠つた様に見えるので櫓と云ひますが、時によつて一方だけ櫓に圍んで一方は他の駒組をするものもあります。けれども此處には櫓の駒組を説明するのですから双方が櫓に圍ふ場合、即ち相櫓と云

つて同じやうに組み上げ矢張り先手より仕懸の手順を説きます。

△七六歩 ▲三四歩 △二六歩  
 ▲四四歩 △四八銀 ▲三二銀  
 △五六歩 ▲五四歩 △三六歩  
 ▲八四歩 △七八銀 ▲六二銀  
 △二五歩 ▲三三銀 △五八金右  
 ▲八五歩 △七七銀 ▲五二金右  
 △六六歩 ▲四三金 △六八玉  
 ▲四二玉 △七八玉 ▲三二玉  
 △六七金 ▲七四歩 △七九角  
 ▲三一角 △八八玉 ▲二二玉



- △七八金 ▲三二金 △三七銀 ▲七三銀 △一六歩 ▲九四歩 △九六歩
- ▲一四歩 △三五歩 ▲同歩 △同角 ▲三四歩 △六八角 ▲七五歩
- △同歩 ▲同角 △七六歩 ▲四二角

之で同じやうに組み上りました、即ち相櫓であります。之より仕懸けは色々ありますが、先づ普通の分れを左に一例として出します。

- △四六歩 ▲六四歩 △三六銀 ▲七四銀 △四五歩 ▲同歩 △三七桂 ▲六五歩 △同歩 ▲七
- 三桂 △四五桂 ▲四四銀 △二四銀 ▲同歩 △二三歩 ▲同金 △二五歩 ▲同歩 △二四歩 ▲
- 同角 △同角 ▲同金 △四六角 ▲五一角 △二四角 ▲同角 △二五銀 ▲四六角 △三四銀 ▲
- 二八角 △二三金 ▲三一玉 △四三銀 ▲四一玉 △四四成銀 ▲五一玉 △五三桂 ▲六一玉
- △六三銀 ▲同銀 △同成桂 ▲六二歩 △八三銀 ▲同飛 △七二金 ▲五一玉 △六二金 ▲四
- 一玉 △四二歩 ▲三一玉 △三二歩 ▲四二玉 △五二金

之れにて上手方の勝であります。但し此通りに指せば先手が勝ますが、下手方は

之れを途中で工夫して紛らしますから、必らず此の通りにもなりますまい。が、上手方は上手丈の徳がありますから、手本としては此の通り出してあるのであります。

### 袖 飛 車

袖飛車とは後に後手方が指しまして、(先手は居飛車が徳であるから)飛車を左へ一間寄る、即ち飛車が「七二」へ寄つて、丁度袖の形となりますので此名稱が出たものと見えます。其駒組は左の如くであります。

- △七六歩 ▲三四歩 △二六歩 ▲四四歩 △二五歩 ▲三三角 △四八銀
- ▲三二銀 △五六歩 ▲五四歩 △三六歩 ▲四三銀 △六八玉 ▲六二銀
- △七八玉 ▲五三銀 △六八銀 ▲七四歩 △五八金右 ▲七五歩 △同歩
- ▲六四銀 △七七銀 ▲七二飛

	九	八	七	六	五	四	三	二	一
▲下 ▲手 ▲方 ▲持 ▲駒 ▲ナ ▲シ	香	桂	銀	玉	金	歩	歩	飛	桂
	歩	角	玉	歩	金	銀			
	歩	歩	銀	歩		歩			歩
			歩					歩	
					歩				
				銀	歩	歩	歩		
	歩	歩		歩		銀	角	歩	歩
▼上 ▼手 ▼方 ▼持 ▼駒 ▼ナ ▼シ	香	桂		飛					香

即ち此「七二飛」が袖飛車であります。之れから先手の仕懸けでありまして、其の一例として分れを申せば、

- △七九角▲七五銀△二四歩
- ▲同歩△同角▲同角△同飛
- ▲二二歩△二三歩▲七六歩
- △八八銀▲三二金△二二歩
- ▲同金△七三歩▲八二飛△
- 七二角▲二三歩△六一角▲
- 同玉△二五飛▲六四角△七
- 二金▲同飛△同歩▲同玉△

七四飛▲七三金△七五飛廻ル  
 之れで先手がよろしいのであります。併し定跡は何れも先手の宜しき道理に出来て居ります。後手は又後手だけの力で途中で紛らすのであります。此處では省いておきます。

○石田指し方 (先手方石田)

石田とは石田と云ふ人の指し始めた爲めに此名があります。始めて此の人の指した時は之を崩す工夫がつかずに後手方が苦しんだのでありましたが、其後に種々後手方で受け方を工夫して見まして、今では石田は餘り先手の利益な指し方となつて居りません。其の理由は先手でありながら飛車を左へ廻して手損となり、後手が却つて居飛車で玉を左の方へ圍つて仕舞ひますから、畢竟先手と後手が反對になります。





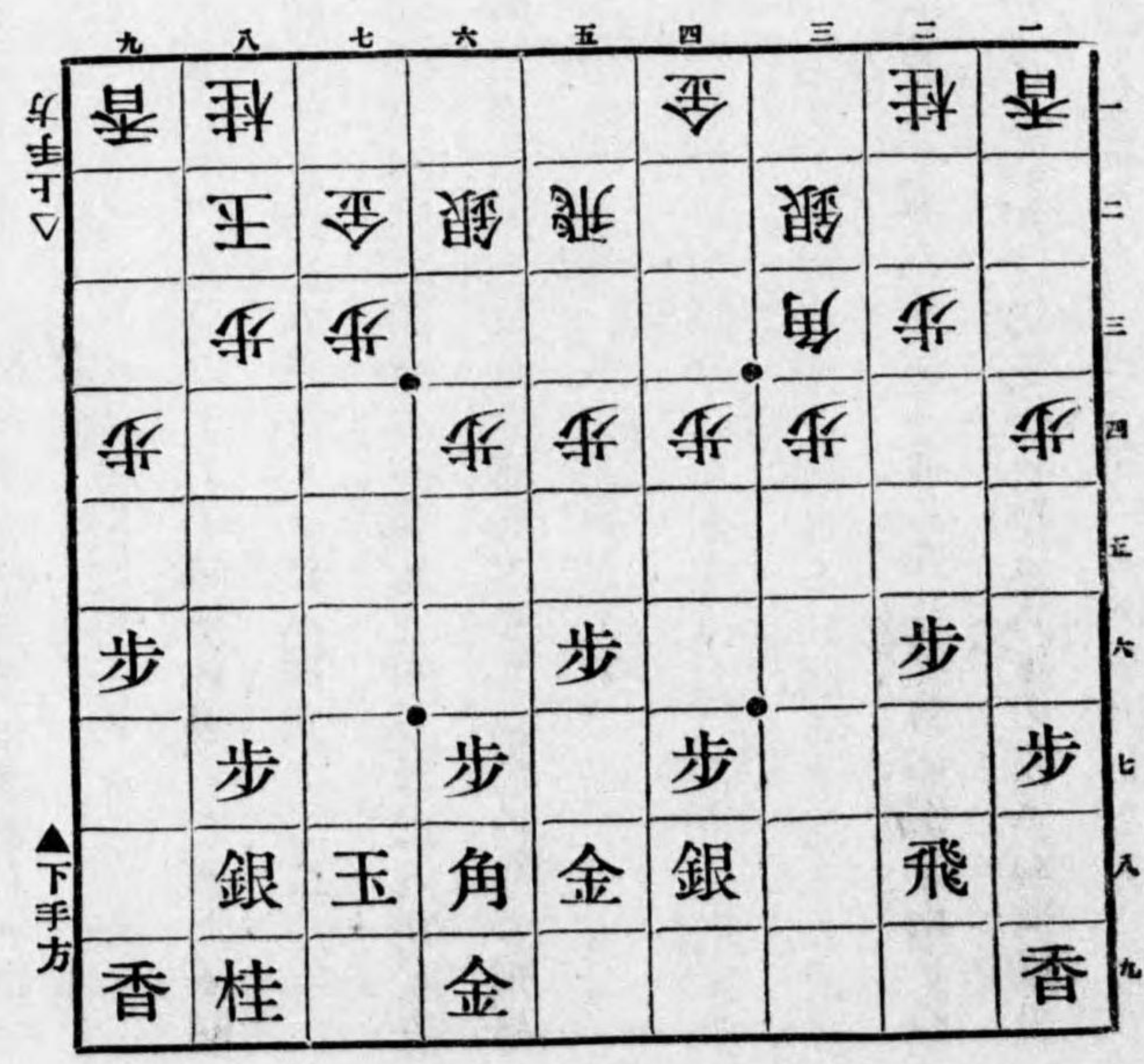
つた處であります。之より先手の仕懸となります。色々の手もありますが、一通り分れを記しますれば、

△五七銀▲六四歩△五五歩▲同歩△同角▲六三金△八八角▲五四歩△二四歩▲同歩△二五歩▲同歩△同桂▲二二角△二三歩▲三一角△一三桂▲同角△二二歩  
 之で先手が利益となりました。又此の美濃圍は平手では先手を好みませんが、左香落ちの將棋では上手方即ち先手方は左に香車がありませんために據ろなく飛車を左へ廻して玉を右の方へ美濃に圍ふのが本定跡になつて居ります。

○中飛車

中飛車は左香落の時に香を落した方で中飛に廻つて敵に左香落の傷を指せぬために中より先手で仕懸ける定跡もありますが、平手では餘り大家の指さぬ將棋であります。併し素人は最も好んで中飛車を指しますから此に一例を出します。

- △七六歩 ▲三四歩 △二六歩
- ▲四四歩 △四八銀 ▲三二銀
- △五六歩 ▲五四歩 △五八金<sub>右</sub>
- ▲五二飛 △六八玉 ▲六二玉
- △七八玉 ▲七二玉 △三六歩
- ▲六二銀 △二五歩 ▲三三銀
- △三七桂 ▲八二玉 △七七角
- ▲七二金 △八八銀 ▲九四歩
- △九六歩 ▲六四歩 △一六角
- ▲一四歩 △六八角





之で後手方中飛車に組み上げた形であります。總體先手は居飛車がよろしいので後手が種々の變つた手を指すため四間とか中飛とか飛車を廻すのでありますから、此の中飛も後手が中飛と指したのであります。此でいよいよ戦端を開くことになります。即ち後手から中飛を利用して仕懸ける指し方であります。

▲五五歩△同歩▲同飛△三四歩▲同歩△同角▲同角△同飛▲二三歩△二六飛▲三三角△五七歩▲五二飛△四六歩▲四二飛△四七銀▲六三銀△五六歩▲七四歩△六六歩▲七三桂△六七金▲八四歩△八六歩

之れで一戦争終りましたが、之から双方の力次第であります。之は中飛を先手が撃退した分れを示したのであります。素人の中は中飛を受けるに困ると云ふ人が多くありますから、中飛を撃退した一例を示したのであります。總體、敵の中飛には「二六歩」を早く突き「三七桂」と上つて居るのがよろしいのであります。然うすれば敵の中飛の策戦は効を失ふものであります。

### ○向飛車

向ひ飛車とは一方は居飛車で一方が角を上つた後へ飛車が廻り、丁度飛車と飛車が向ひ合ふので「向ふ飛車」と云ふ名があります。之も先手は居飛車が徳ですから後手が向ふ飛車に廻る駒組を示します。

- △七六歩 ▲三四歩 △二六歩
- ▲四四歩 △二五歩 ▲三三角
- △四八銀 ▲三二銀 △五六歩

	九	八	七	六	五	四	三	二	一
香	桂	銀	金					飛	桂
		玉	金					歩	
	歩		銀	銀	角	歩	歩	歩	
		歩	歩	歩	歩	歩		歩	
								歩	
	歩	歩	歩	歩	歩	歩	飛	歩	
	歩		銀				桂		
	角	玉	金						
香	桂	銀	金						香

▲下手方

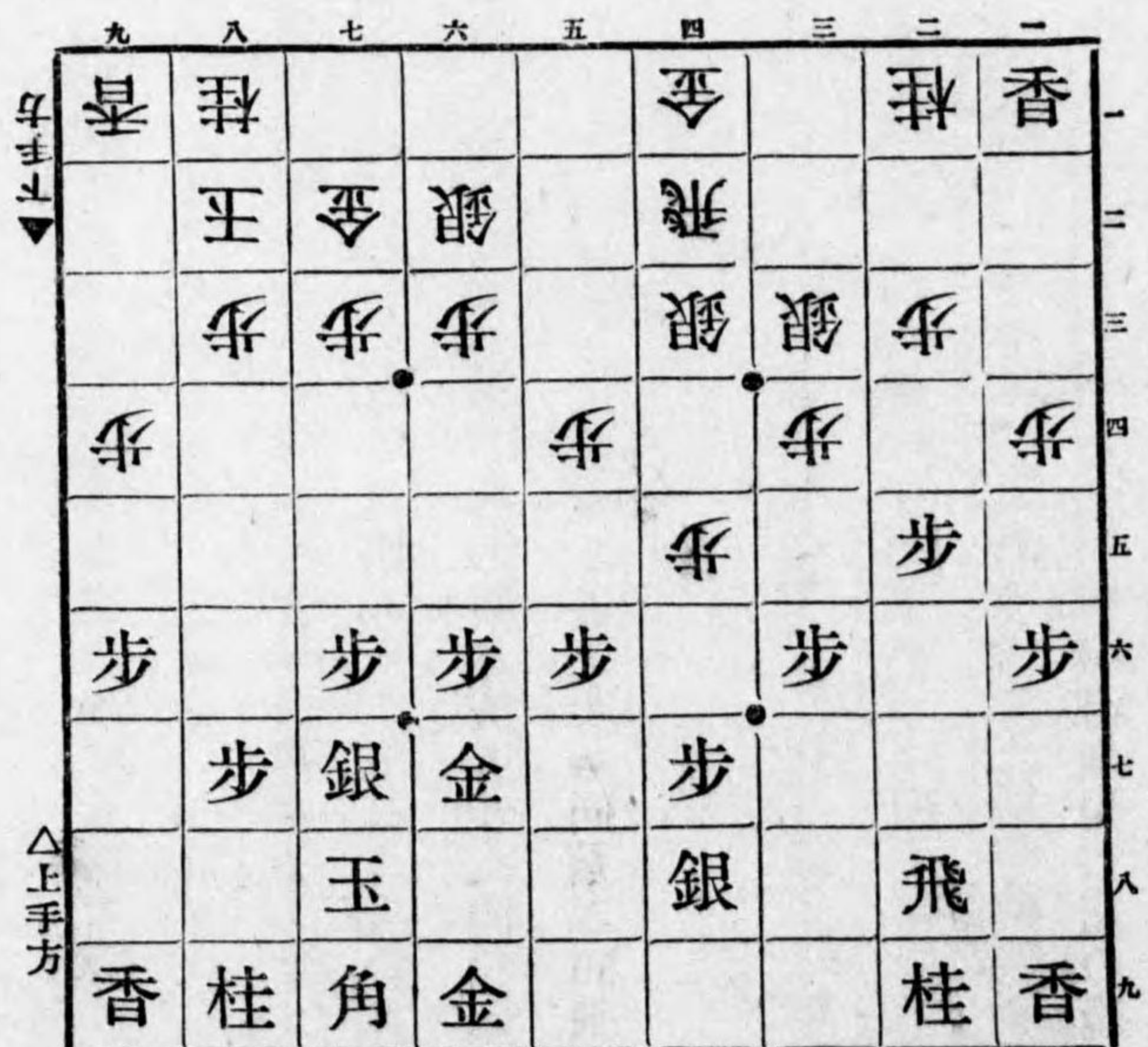
▲五四歩 △三六歩 ▲四三銀 △六八玉 ▲二二飛 △七八玉 ▲六二玉  
 △五八金<sub>右</sub> ▲七二玉 △四六歩 ▲五二金<sub>左</sub> △五七銀 ▲六二銀 △一六歩  
 ▲一四歩 △二六飛 ▲五三銀 △九六歩 ▲九四歩 △三七桂 ▲七四歩  
 之で向ひ飛車の駒組は出来上りましたから、いよ／＼先手から仕懸て参ります。  
 △五五歩 ▲同歩 △同角 ▲六四歩 △五六銀 ▲六三金 △六八銀 ▲八二玉 △八八角 ▲七  
 二金 △三五歩 ▲同歩 △四五歩 ▲同歩 △三三<sub>ナ</sub>角 ▲同桂 △八八角 ▲五五歩 △同角 ▲四  
 四銀<sub>右</sub> △三四<sub>打</sub> ▲五五銀 △三三<sub>ナ</sub>歩 ▲五六銀 △同飛 ▲五二飛 △五三歩 ▲同飛 △同飛 ▲  
 同金 △四三と ▲同金 △六一角  
 之れで先手のよろしき形であります。

○雁 木 (引角)

雁木とは玉を俗に云ふ雁木の形の中に圍ふのであります。其駒組は先づ左の通り

であります。

△七六歩 ▲三四歩 △二六歩  
 ▲四四歩 △四八銀 ▲三二銀  
 △五六歩 ▲五四歩 △三六歩  
 ▲四二飛 △五八金<sub>右</sub> ▲六二玉  
 △六八玉 ▲七二玉 △七八玉  
 ▲六二銀 △一六歩 ▲一四歩  
 △二五歩 ▲三三<sub>角</sub> △六八銀  
 ▲九四歩 △九六歩 ▲八二玉  
 △七七銀 ▲七二金 △七九角  
 ▲四五歩 △六六歩 ▲四三銀  
 △六七金



にて盤面の圖となります。

此の末は樽圍ひにも變じます。此の將棋は先手五五の歩を突きかはられる時は不利益ゆゑ、三筋より急に仕懸けるをよろしとしてあります。

盤面以下の指方 ▲三二飛△三七銀▲六四歩△四六歩▲同歩△同銀▲六三銀△三

五歩▲同歩△同銀

此末は種々あつて、双方の力ですから簡單には説かれません。駒組を示します。

### 〇三 筋

三筋とは飛車を三筋へ廻して指しますから名づけられたので、これも先手は居飛車で、後手が三筋へ飛車を廻すのであります。但し先手で三筋を指さぬとは限りませんが、前に云ふ通り先手は居飛車を法としますから、これも後手三筋の駒組を出します。

△七六歩	▲三四歩	△二六歩
▲四四歩	△二五歩	▲三三歩
△四八銀	▲三二銀	△五八金 <sub>右</sub>
▲四三銀	△六八玉	▲三二飛
△七八玉	▲三五歩	△四六歩
▲六二玉	△一六歩	▲一四歩
△五六歩	▲五四歩	△九六歩
▲九四歩	△四七銀	▲七二玉
△六八銀	▲四二角	△四五歩
▲三四飛		

以上で駒組が出来上りました

九	八	七	六	五	四	三	二	一	
香	桂	銀	金		金		桂	香	一
		王		角					二
	歩	歩	歩	銀		歩			三
歩				歩	歩	飛		歩	四
				歩	歩	歩			五
歩		歩		歩				歩	六
	歩		歩	銀		歩			七
	角	玉	銀	金			飛		八
▲下手法	桂		金				桂	香	九

から、愈よ仕かけとなります。

△四四歩▲同銀△二四歩▲同歩△三二歩▲三三桂△二二歩▲二五歩△二二と  
▲二四飛△二三と▲同飛△四四角▲二六歩△三八銀▲六四角△三四銀  
これで先手の方宜しき形であります。

### 香 車 落

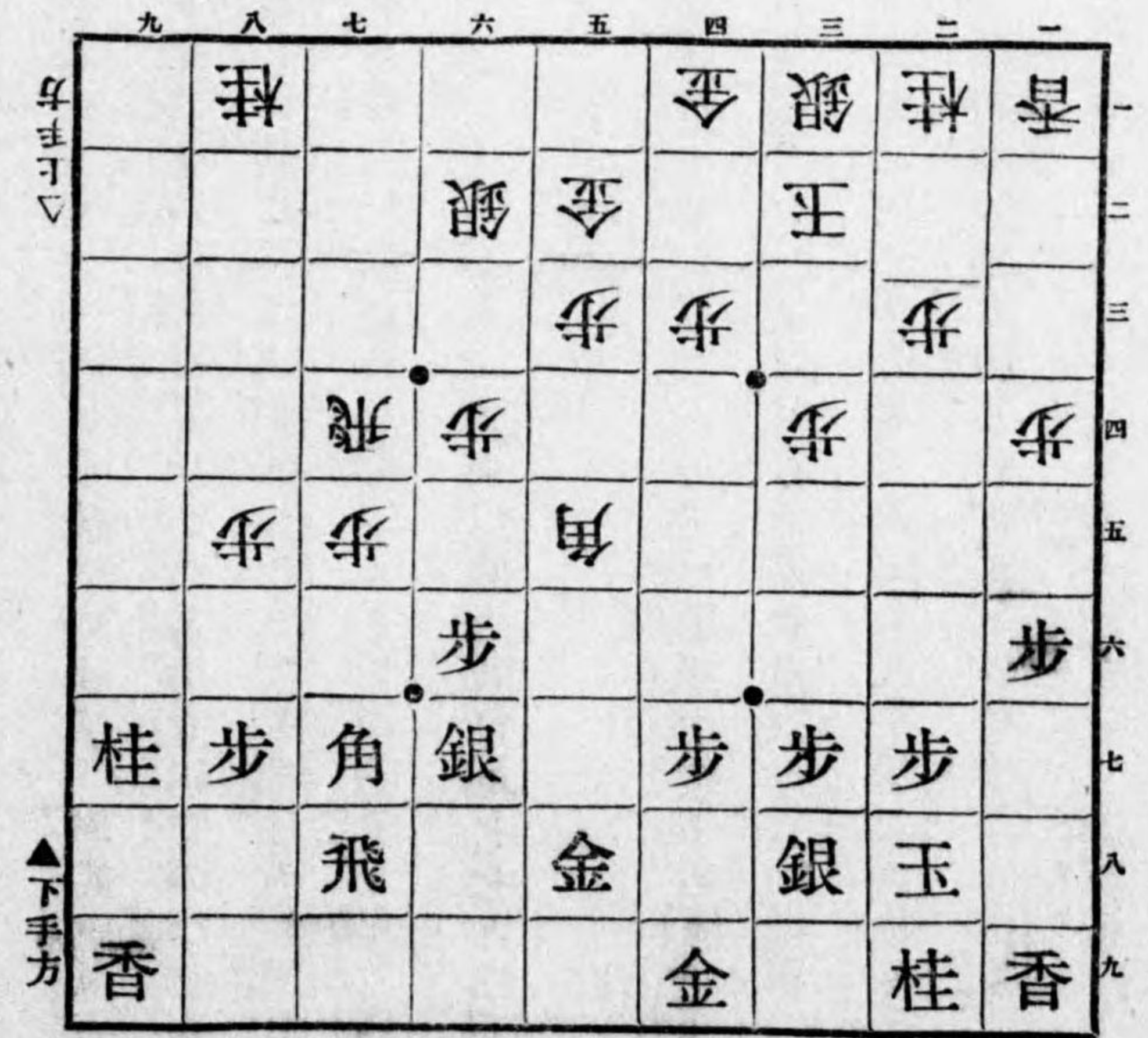
左 香 落 (本定跡)

これから以下の諸項は初學の人の爲めに特に述べるのでありますから、その心持で研究して欲しいのであります。最初香車落から初めます。  
香車を一枚落す時は二段の相違があります。この香落の傷みを指すと云ふことは餘程上手の人でなくては、其れほどの効能が見えませんが、随分指せる力のある女人

でも二段だけの傷みを指すことは困難で、平手と大した違ひがないやうに指して居ります。然すれば素人にあつては到底此の香落を下手の徳のやうに指すことは出来ぬと云つても宜しい程であります。それ故素人は香車などは落して貰つても利益が見えませぬからと云つて、平手より直に角落に移る人が多いやうであります。殊に右香車となりますと其の傍に飛車が居るので一層傷みを指すことが出来ません。これが爲め近來は右香落は廢つてしまつて少しも指しません。故に右香落は省いて直に左香落を出しませう。例に依つて一通りの駒組を出します。

元來左香落は上手の左に香車の無いのを付込んで、上手の左の端から下手の飛香を利用して攻め込むのが本定跡であります。上手は之を避ける爲めに中飛車に廻つて早く戦端を開き、下手に左の端を指させぬ事などもあります。これは一時の紛らしで、本定跡は上手も飛車を「七八」へ廻つて防ぐのが正しいのであります。

- △七六歩 ▲三四歩 △六六歩
- ▲八四歩 △七五歩 ▲八五歩
- △七七角 ▲九四歩 △七八飛
- ▲九五歩 △六八銀 ▲六二銀
- △四八玉 ▲四二玉 △三八玉
- ▲三二玉 △一六歩 ▲一四歩
- △二八玉 ▲五二金<sub>右</sub> △三八銀
- ▲九二飛 △九八飛 ▲九四飛
- △六七銀 ▲七四歩 △同歩
- ▲同飛 △七八飛 ▲七五歩
- △五八金<sub>左</sub> ▲六四歩 △五六歩
- ▲九六歩 △同歩 ▲同香



△五五歩 ▲同角 △九七歩打 ▲同香 △同桂

右の如き形に駒組をするのが普通であります。これから後はいよいよ戦端を開きますので、實に手が廣くて何れの手を指して行けば宜しいかは昔から研究のついた人の無い程であります。けれども参考としてホンの一斑を出すことに致します。即ち前の「九七」へ桂が香を取つて出た次の手であります。

▲九六歩△八五桂▲九七歩△八六角▲八七△七五飛▲同飛△同角▲七七と△五六銀▲七六と△八四角▲六六角

以上の分れは五分々々としてありますが、實は五分々々では下手が損でありますから、必ず香落だけの傷みを指すといふ譯にゆかぬのであります。

○角 落

角落にも色々駒組があります。結局上手から云つて玉を銀で圍ふを「銀象嵌」と

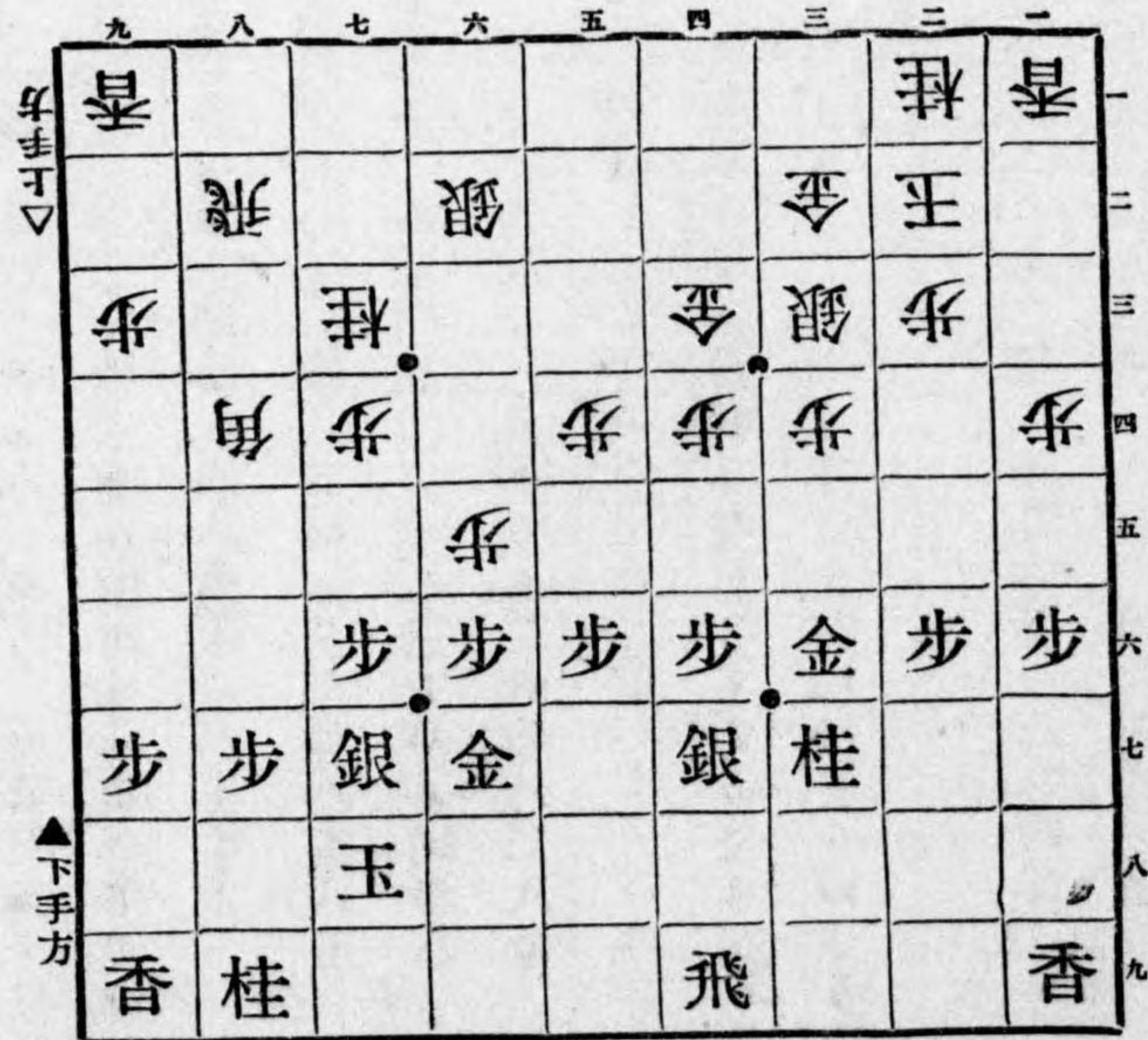


△三七金<sup>スゲ</sup> ▲七二金 △七七桂 ▲六三金 △二六金 ▲五一角<sup>ヒク</sup> △三七桂 ▲七三桂  
 これで上手は玉を銀で圍つて銀象嵌となり、下手は又銀を玉の頭へ頂いて銀冠と  
 なりました。これを角落の本定跡と云ひます。この分れを一通り示します。  
 △二九飛 ▲二二飛 △八九飛 ▲六二角 △八五歩 ▲同桂 △同桂 ▲三三桂 △五八玉  
 ▲二四歩 △同歩 ▲同飛 △二五歩 ▲二一飛 △七七銀 ▲四五歩 △三五歩 ▲同歩 △  
 四五歩 ▲八五歩 △同飛 ▲三四桂 △二七金 ▲八四歩 △八九飛 ▲二六歩 △二八金  
 ▲四六歩 △二八金 ▲三六歩  
 これで下手の宜しき形であります。この外上手には色々受け手もありますが、總  
 じて角落以下は下手の宜しいのが定跡でありまして、上手は定跡にはまらぬやう何  
 處ぞから紛らして下手を破らうとするのであります

○角落櫓圍ひ

これは下手が玉を櫓に圍ふの  
 でありまして、平手の櫓圍ひと  
 似て居りますが、上手は角を抜  
 いてありますので、先手でも平  
 手の指し方と違ひますから、そ  
 の駒組を一通り出します。

- △四八銀 ▲三四歩 △五六歩
- ▲五四歩 △四六歩 ▲四四歩
- △三六歩 ▲三二銀 △四七銀
- ▲八四歩 △六八玉 ▲八五歩
- △七八玉 ▲五二金<sup>右</sup> △一六歩



- ▲一四歩 △二六歩 ▲三一角 △三八飛 ▲四三金 △三五歩 ▲同歩
- △同飛 ▲三三銀 △四八金 ▲六二銀 △三九飛 ▲三四歩 △五八金
- ▲四二玉 △三七金 ▲三二玉 △三六金 ▲七四歩 △八八銀 ▲二二玉
- △三七桂 ▲三二金 △六六歩 ▲八六歩 △同歩 ▲同角 △八七歩打
- ▲七五角 △六七金 ▲六四歩 △七五歩 ▲八四角 △七七銀 ▲六五歩
- △四九飛 ▲七三桂

これで下手樽圍ひが出来ました。形は矢張り下手の利益でありまして、これから分れの戦争となりますが、普通に行けば最早下手の勝形であります。

○六 枚 落 一 番

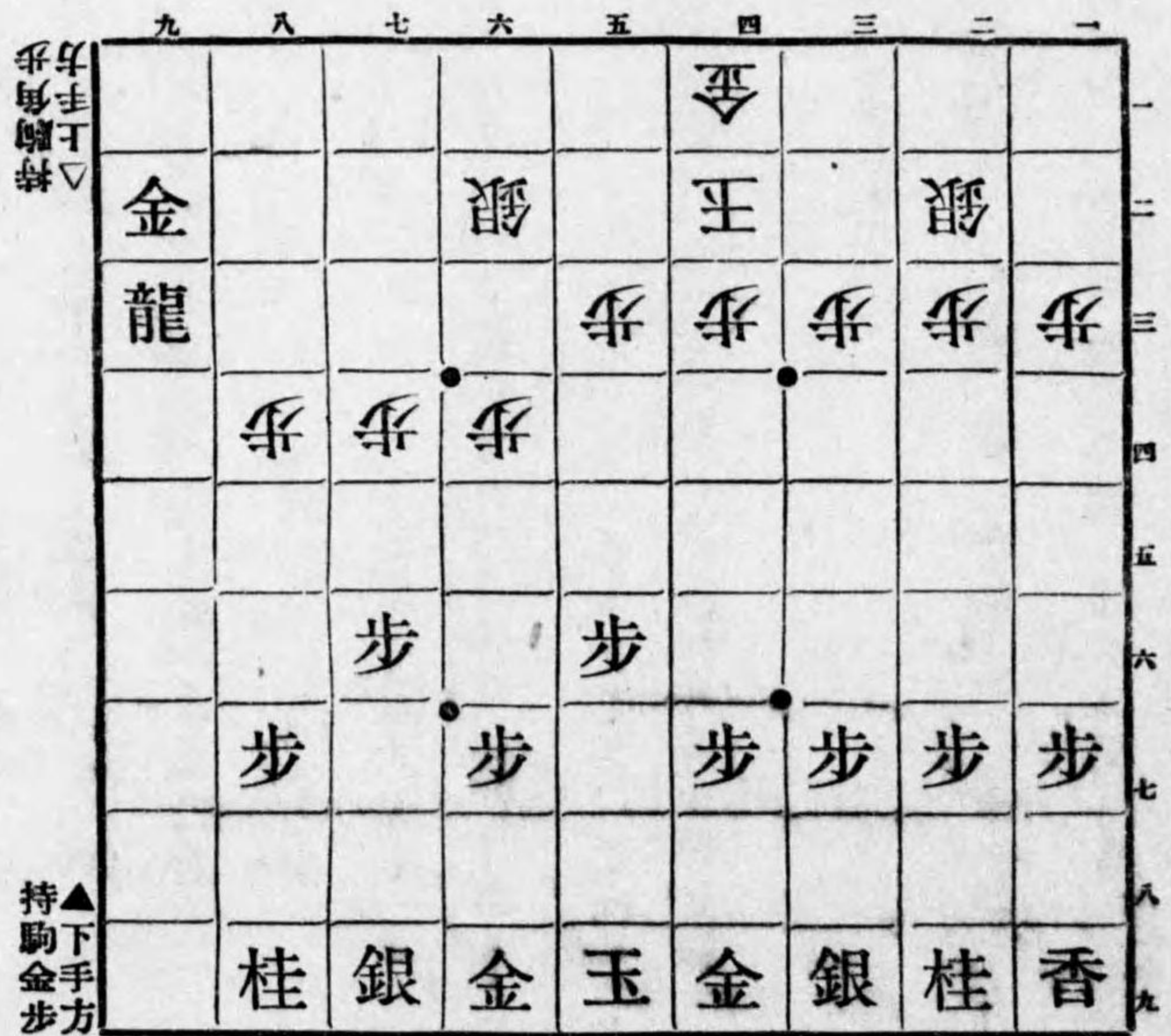
- △七二金 ▲七六歩 △二二銀 ▲六六角 △八二銀 ▲九六歩 △六四歩
- ▲五六歩 △七四歩 ▲九五歩 △七三金 ▲九四歩 △同歩 ▲同香

- △八四金 ▲同角 △同歩
- ▲九二香<sup>ナル</sup> △七三銀 ▲九八飛
- △四二玉 ▲九三飛<sup>ナル</sup> △六二銀
- ▲七五歩

○此時、五二金と五四角打との二種の指手があります。

【評】 下手方八二成香と寄せる手もありますが後にして本譜の七五歩突きは歩兵を以て敵陣を攻撃する目的で着手せしもので面白し。

(面局の銀二六) 圖 一





◇第一圖以下の指方 (其一) 上手方

- △五二金 ▲七四歩 △七二歩<sup>打</sup> ▲八二成香 △六三銀 ▲七三歩<sup>ナ</sup> △同歩
- ▲八三成香 △五四銀 ▲八二龍 △四四歩 ▲七三成香 △四三五 ▲六二成香
- △四二金 ▲七四歩<sup>打</sup> △三四歩 ▲七三歩<sup>ナ</sup>

○此の岐れとなる時は下手方優勢であります

【註】此の末龍の援護をもつて成香と成歩の二枚を活用すれば必勝うたがひありません。

【評】下手方七三歩と成捨て成香の活動を計り、以下七筋に成歩を作る策戦を採りし手段は巧みです。

◇第一圖以下の指方 (其二) 上手方

- △五四角<sup>打</sup> ▲七四歩 △七二歩<sup>打</sup> ▲八二成香 △五二金 ▲五五歩 △二七角<sup>ナ</sup>
- ▲三六金

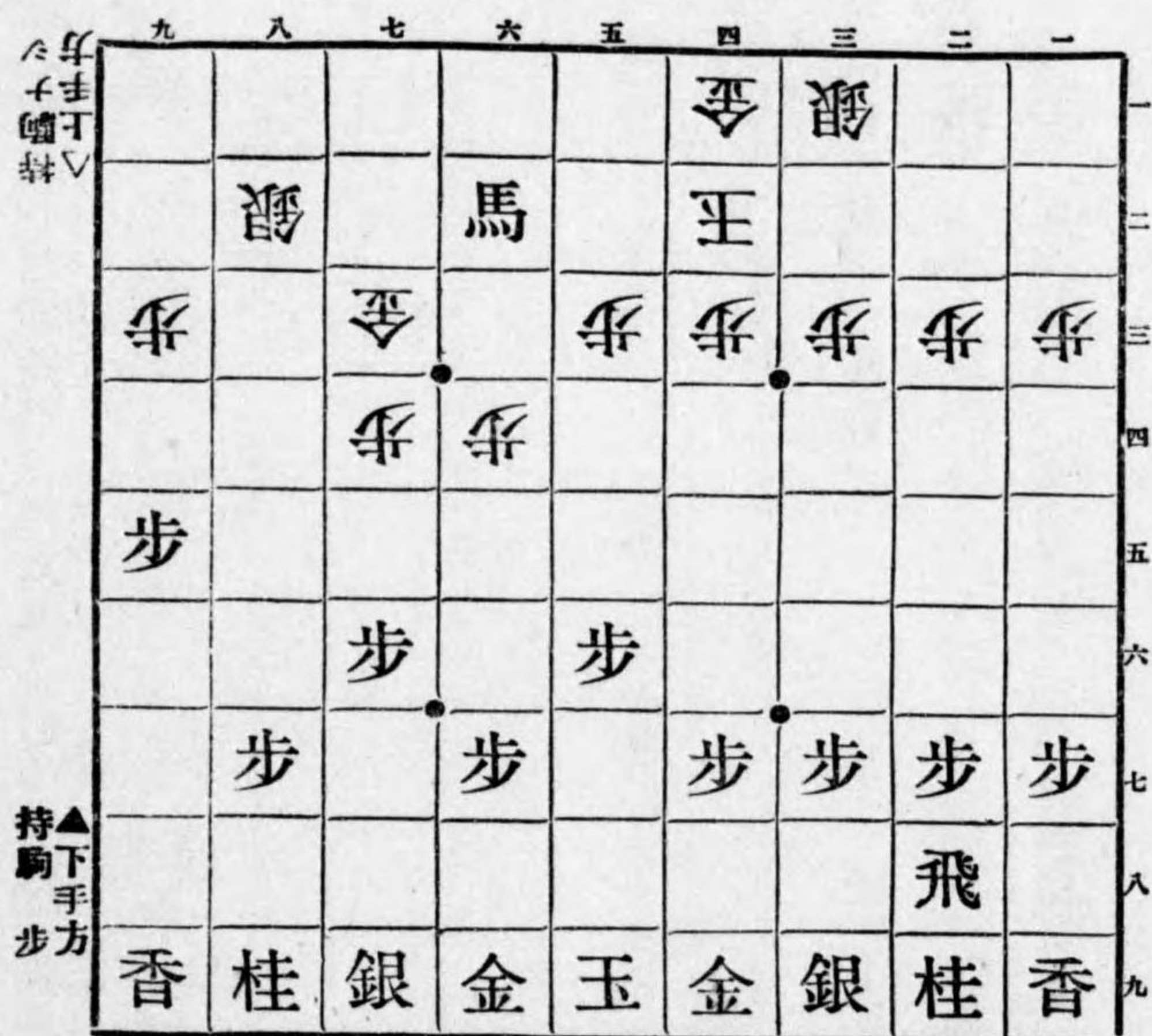
○此の岐れとなる時は、二八歩と打ち、敵の馬を捕虜にすれば下手方優勢であります。

○六 枚 落 二 番

下手はめ手崩しの戦法。

- △四二玉 ▲七六歩 △七二金 ▲六六角 △八二銀 ▲九六歩 △六四歩
- ▲五六歩 △七四歩 ▲九五歩 △八四歩 ▲同角 △八三金 ▲六二角<sup>ナ</sup>
- △七三金

(面局の金三七) 圖二

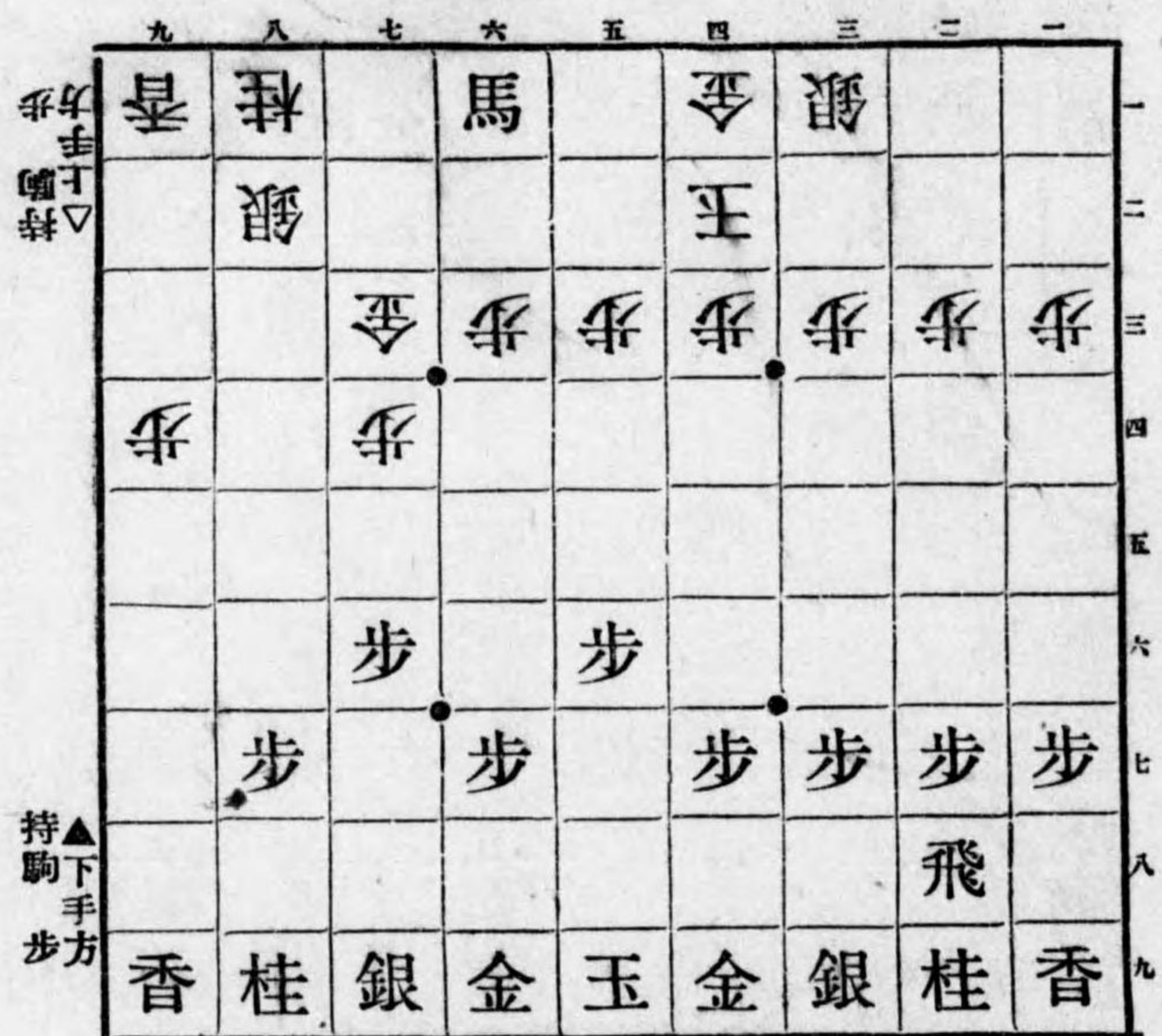


【註】此の局面にては上手は敵の成角を捕虜にする目的ではめてにかけたのでありますが、下手は以下の手段を以て敵陣を破るか、成角を脱出するのであります。

◇ 圖面以下の指方

- ▲ 九四歩 △ 同歩
- ▲ 六一馬

(面局の馬一六) 圖三



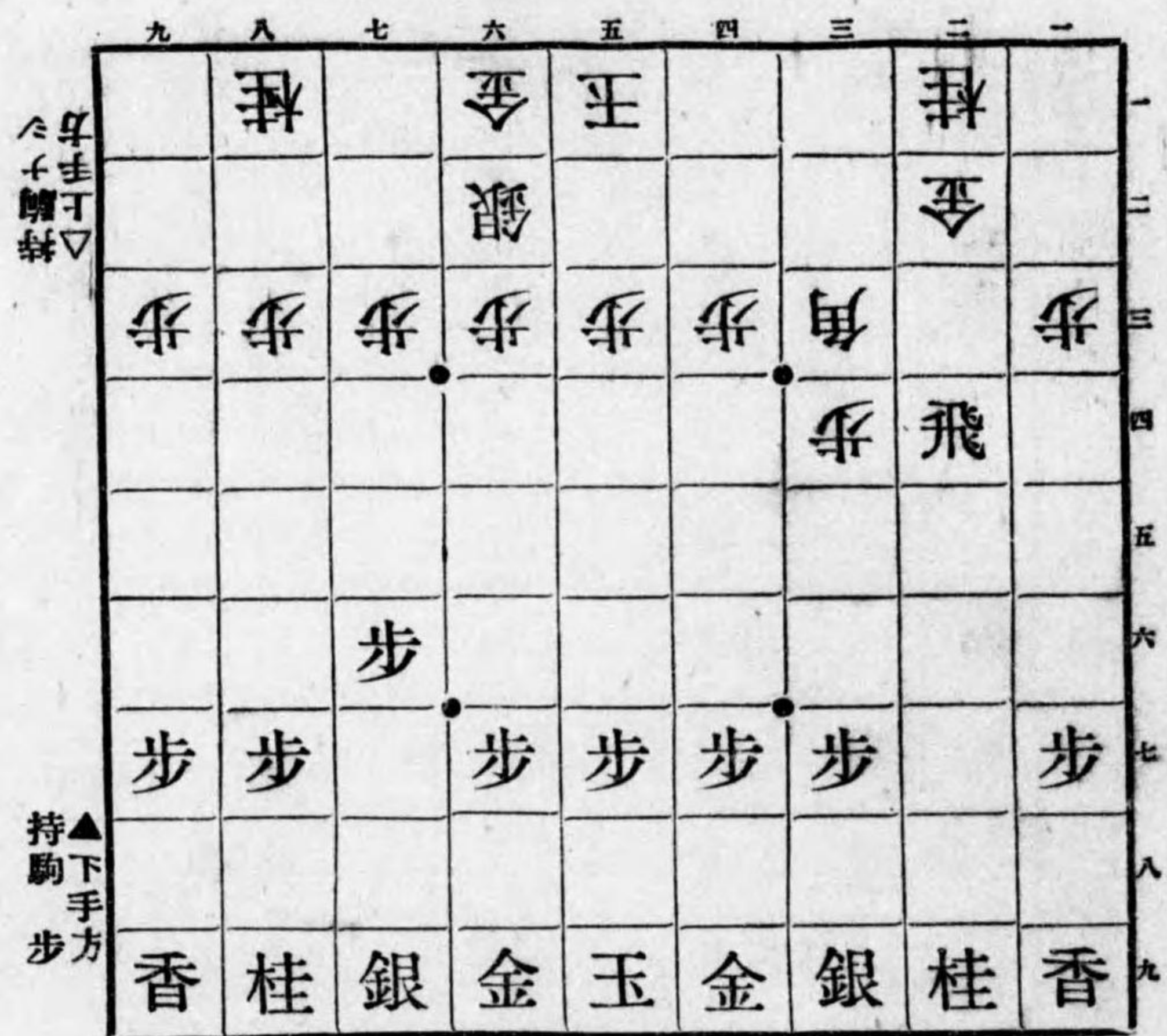
○ 此時八三歩打。八三金との二種の指手があります。

【評】 下手の九四歩に對し上手五一金ならば、同馬、同玉、一三歩ナルにて下手方優勢であります。

◇ 第三圖以下指方(其一)上手

- △ 八三歩 ▲ 九四歩 △ 五
- 一金 ▲ 同馬 △ 同玉 ▲
- 九二香 △ 七一銀 ▲ 九八

(面局の打角三三) 圖一



▲下  
▲手  
▲方  
▲持  
▲駒  
▲歩

▲下  
▲手  
▲方  
▲持  
▲駒  
▲歩

△同 銀 ▲二四飛  
△三三三角

○この岐れとなる時は、上手の策略にはまつた形であります。

以下下手二八飛、三四飛との二種の指手があります。

◇第一圖以下の指方 下手方 (其一)

▲二八飛△九九角▲八八銀

○此の岐れとなる時は下手方優勢であります。

【評】 下手方九四歩と突捨て六一馬と指して敵の一步を八三に打たせ、馬を切り飛車を敵地に侵入する方策を採つたのは面白し。

◇第三圖以下の指方 (其二) 上手方

△八三金 ▲七二馬

【註】 此の末下手方九三歩打の妙手あれば優勢であります。

○四 枚 落 一 番

下手はめ手崩し

- △六二銀 ▲二六歩 △三三金 ▲二五歩 △二二銀 ▲二四歩 △同歩
- ▲同飛 △二三金 ▲二八飛 △二四歩 ▲七六歩 △三四歩 ▲二二角

(面局の打角一) 圖 三

	九	八	七	六	五	四	三	二	一	
▲下手方 持駒歩		桂		金	王			科	角	一
				銀				金		二
	歩	歩	歩	歩	歩	歩		銀	歩	三
							歩			四
										五
			歩							六
	歩	歩		歩	歩	歩	歩		歩	七
		銀						飛		八
		桂		金	玉	金	銀	桂	香	九

徐ろに攻め寄すれば、敵は飛車一枚で防ぐに困難です。但し四五桂跳ねの時は六八銀と受けてよろし。

◇第二圖以下の指方 (其二) 上手方

△八八馬 ▲同銀△二三銀 ▲一一角

○この時一二金、三三金との二種の指手があります。

【註】 手上方二三銀打の處三

(面局の打銀ハ八) 圖 二

	九	八	七	六	五	四	三	二	一	
▲下手方 持駒歩		桂		金	王			科		一
				銀				金		二
	歩	歩	歩	歩	歩	歩			歩	三
									歩	四
										五
				歩						六
	歩	歩		歩	歩	歩	歩		歩	七
		銀						飛		八
		桂		金	玉	金	銀	桂	香	九

○この時二三香打、八八成角との二種の指手があります

◇第二圖以下の指方 (其一) 上手方

△二三香 ▲九九銀△二八香 ▲同銀△三三金 ▲三八金 ▲三三桂 ▲二四歩

○此の岐れとなる時は下手方優勢であります。

【評】 この末下手方には一二角打、二七香などの指手があり、二筋にと金を造り、

三銀打ならば二四步打。同銀同飛二三香打三四飛三三歩打三六飛引によし。

◇第三圖以下の指方 (其二) 上手方

- △一二金 ▲五五角 △二二香 ▲五六馬 △七二金 ▲二四歩 △同銀
- ▲三四馬 △三三銀 ▲一二馬 △二八香 ▲同銀 △四二銀 ▲二三歩
- △三三桂 ▲二二歩 △三一歩 ▲三四馬

この岐れとなる時は下手方優勢であります。

【註】 この末下手方成歩を活用すれば必勝疑ひありません。

【評】 下手飛車を犠牲にして馬を敵地に侵入して成とをつくる策をとつたのは巧妙です。

◇第三圖以下の指方 (其二) 上手方

- △三二金 ▲二二歩 △二四香 ▲二一歩 △二八香 ▲同銀 △二四銀
- ▲二七香 △三五銀 ▲三一と △四四金 ▲三三角 △五二玉 ▲三二と

- △五一金 ▲二二香

○この岐れとなる時は下手方優勢であります。

【註】 この末成香と成歩を活用し攻め寄せる時は、必勝疑ひありません。

【評】 下手方二二歩打以下飛車を犠牲にし、敵を歩切れにして、と金を活用し、三三角成の手段は巧妙です。

◇第一圖以下の指方 (圖面参照其二) 下手方

- ▲三四飛 △四二玉 ▲六六歩

○この岐れにしても下手方指し宜し。

【註】 この末角成を豫期して飛車を三六に引き以下二三兩筋から攻勢をとれば指し易い局となりますが、前章の二八飛引の手段を探る方が優つてゐます。

○二 枚 落 一 番

(上手六四銀越し、下手四四歩  
換り)

- △六二銀 ▲七六歩 △五四歩
- ▲四六歩 △五二金<sub>右</sub> ▲四五歩
- △五三金 ▲三六歩 △六四金
- ▲四八飛 △五三銀 ▲三八銀
- △四二銀<sub>上</sub> ▲三七銀 △六五金
- ▲四六銀 △六二玉 ▲五八金<sub>右</sub>
- △三二金 ▲七八金 △八四歩
- ▲六九五 △八五歩 ▲六八銀
- △六四銀 ▲四四歩 △同歩

(面局の引角六二) 圖一



▲同角 △五三銀引 ▲二六角

○この時四四歩、七二玉、五二玉との三種の指手あり。

【評】 下手方敵が六四銀と出て五五歩と角筋を妨げ金銀を活動する策を採つて来たから本譜の如く早く四四歩と突いて角の活動策を計り、以下銀飛車と相呼應して攻勢を採る意味ありて面白し。

◇第一圖以下の指方 (其二) 上手方

- △四四歩<sub>打</sub> ▲四五歩<sub>打</sub> △二四歩 ▲一六歩 △二五歩 ▲一七角 △四五歩
- ▲同銀 △五二玉 ▲四四銀 △六四銀 ▲四三歩<sub>打</sub> △五一銀 ▲七七桂
- △七六金 ▲六五桂 △六二銀 ▲五三桂<sub>ナ</sub> △同銀 ▲同銀 △同銀
- ▲四一銀<sub>打</sub> △六二玉 ▲四二歩<sub>ナ</sub>

○この岐れとなる時は下手方全勝となります。

【評】 下手方左翼の桂を進め攻撃手段をとつたのは巧妙であります。

- ◇第一圖以下の指方 (其二) 上手方
  - △七二玉 ▲四五銀 △二四歩 ▲四三歩 △同金 ▲五六銀 △同金
  - ▲四三飛 △同銀 ▲五三角 △五五金 ▲六一銀 △八三玉 ▲六三馬
- この岐れとなる時は下手方全勝となります。

【評】 下手方四三歩と打ち捨て五六銀と引飛車引きの手段は尤も妙味があります。

◇第一圖以下の指方 (其三) 上手方

- △五二玉 ▲四五銀 △二四歩 ▲四四銀
- この時同銀、六二銀引との二種の指手があります。

◇第二圖以下の指方 (其一) 上手方

- △四四銀 ▲同角 △五三銀 ▲四一銀 △同玉 ▲五三角

○この岐れとなる時は下手方優勢であります。

【評】 下手方四一銀打が主眼であります。

(面局の銀四四) 圖二

	九	八	七	六	五	四	三	二	一
上手	桂	桂						桂	桂
持駒					王	銀	銀		
△	歩		歩	歩	歩	銀	歩		歩
					歩	銀		歩	
		歩		歩					
			歩				歩	角	
	歩	歩		歩	歩			歩	歩
▲			金	銀	金	飛			
持駒	香	桂		玉				桂	香
△									

◇第二圖以下の指方 (其二) 上手方

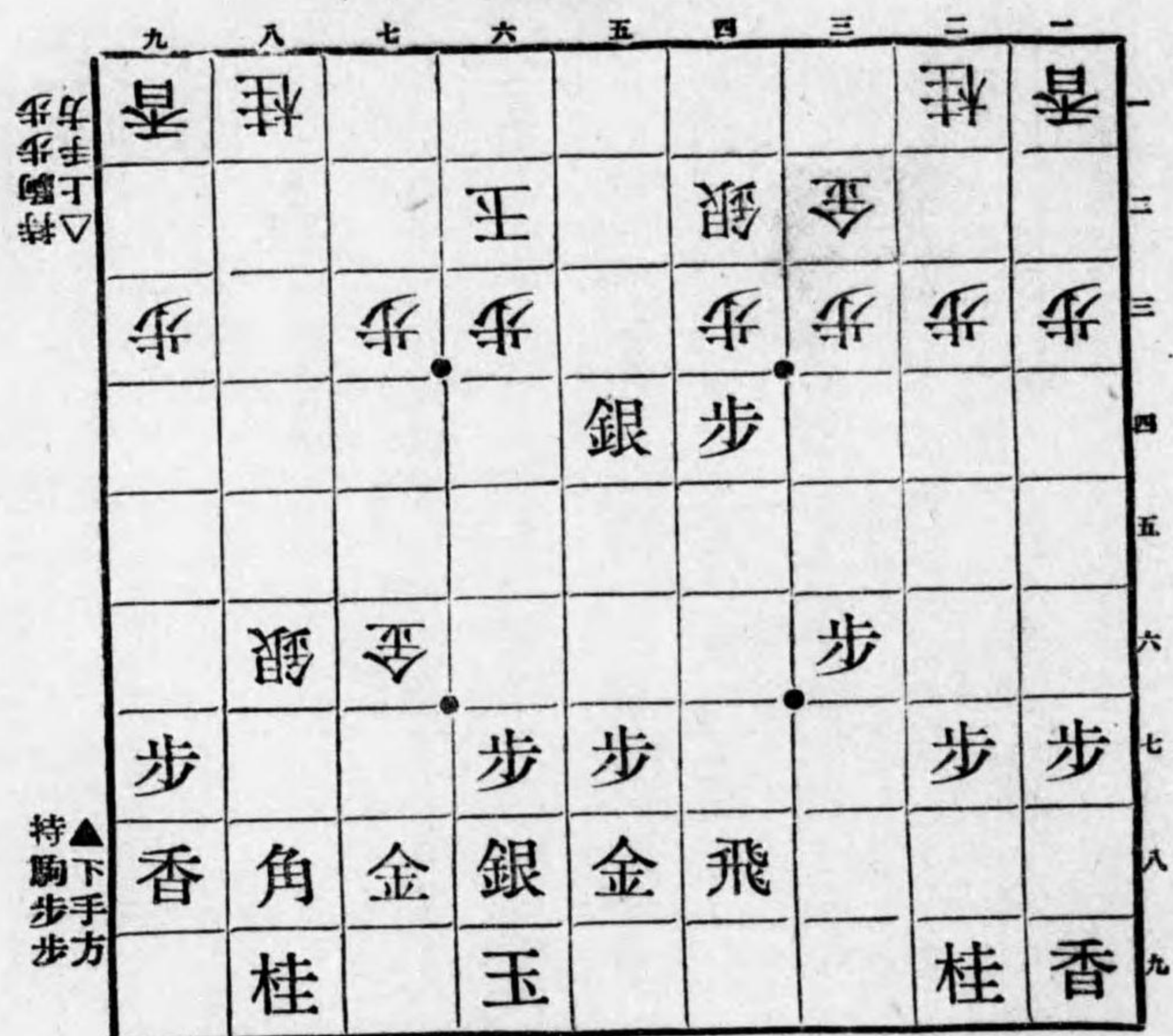
- △六二銀 ▲四三歩 △五一銀
- ▲四五飛 △五五歩 ▲七七桂
- △六四金 ▲五五銀 △七四金
- ▲七五歩 △八四金 ▲四四飛
- △八三金 ▲二四飛 △二三歩
- ▲五四飛

○この岐れとなる時は下手方優勢であります。

【註】 上手方八四金の處七五

同金と取れば五四銀、七四

(面局の銀四五) 圖 四

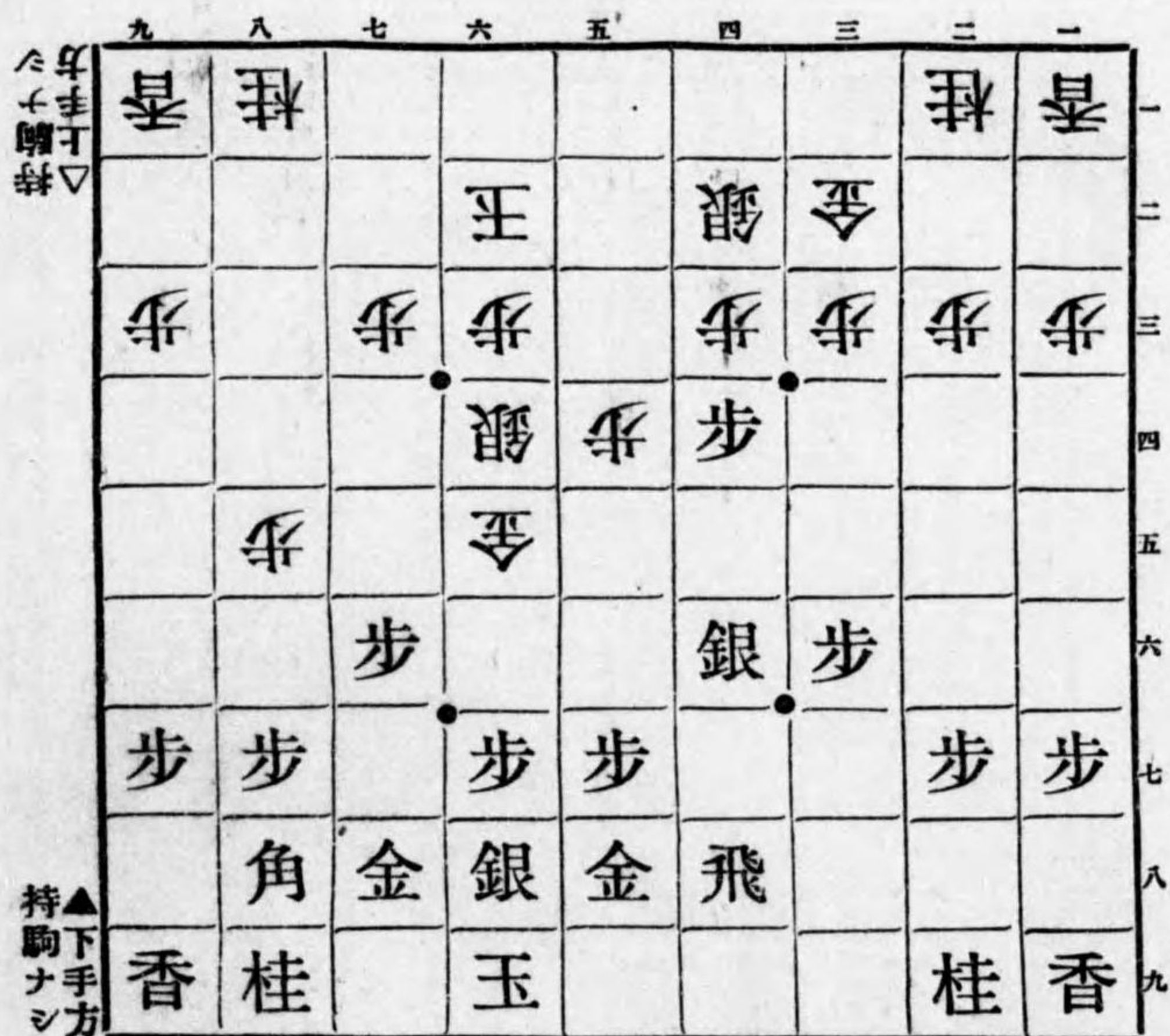


○この時四四歩、八七銀ナルとの二種の指手があります

【註】 下手方九八香上りは習ひある定法なり。心得あるべし。

【評】 上手方金銀を以て急激に角頭から攻めて来た時、下手方四筋より攻撃手段をとりしは巧妙なり。

(面局の突歩四四) 圖 三



金、六五桂にて下手方矢張り優勢であります。

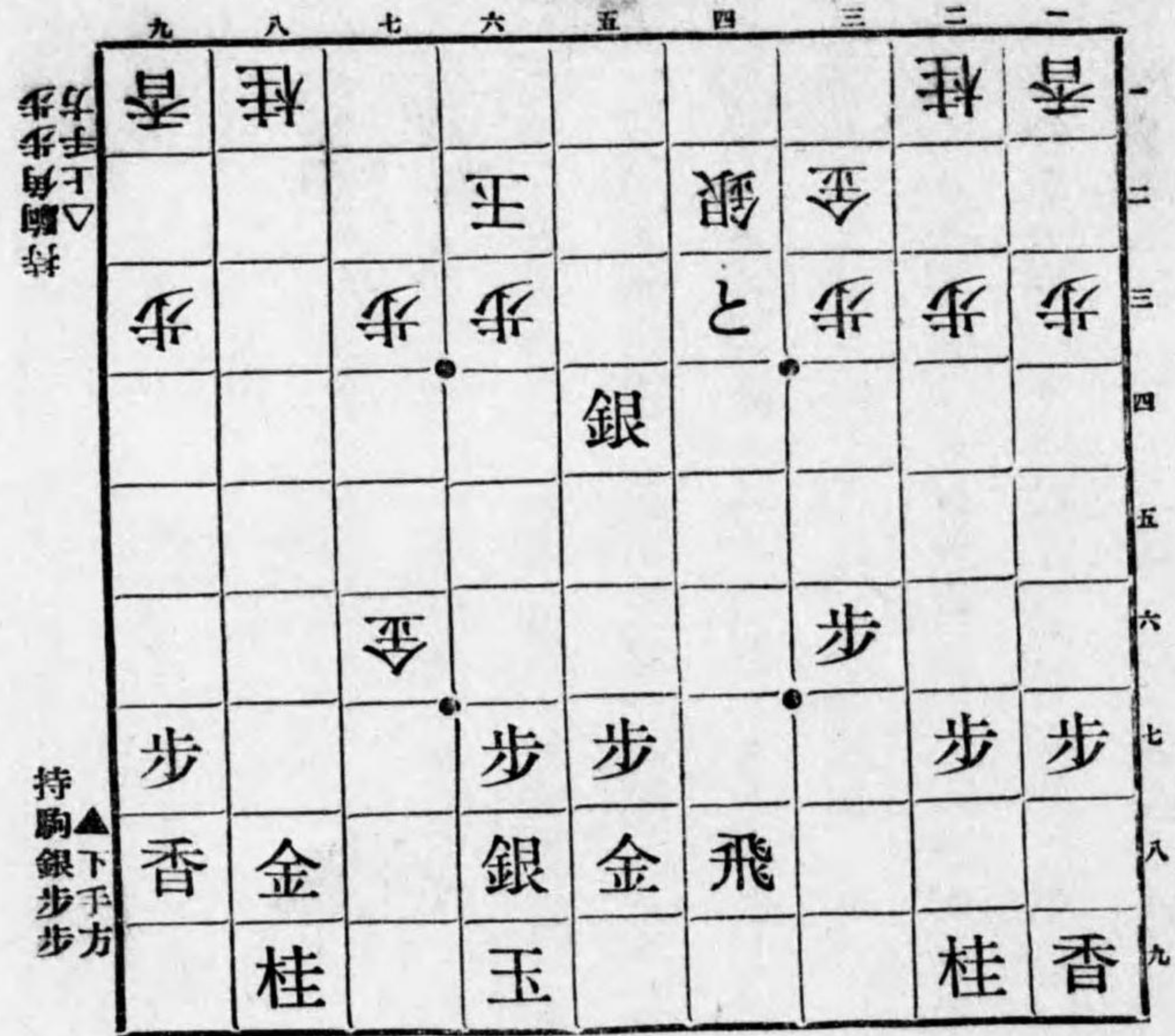
●春三圖 前章の變化上手方八六歩突き

圖面の場合下手方の四四歩を同步と取らずして、

△八六歩▲同步△七六金▲九八香△七五銀▲四五銀△八六銀▲五四銀



(面局の金八八) 圖五



▲下手方  
▲駒銀歩歩

▲下手方  
▲駒銀歩歩

○この岐れとなる時は下手方優勢であります。

【註】この末上手四六歩打ならば八四歩打の手があります。

- ◇第五圖以下の指方 (其二) 上手方
- △五五角打 ▲五二銀打 △七二玉 ▲八四歩打 △八三歩打 ▲六三銀引 △八二玉 ▲三二と

◇第四圖以下の指方 (其一) 上手方

- △四四歩 ▲同 角 △五三歩打 ▲四三歩 △同 金 ▲五三角ナル△同 銀
- ▲四三飛ナル△五四銀 ▲五三金打 △七二玉 ▲五四龍 △七四銀打 ▲八四歩打
- △八七歩打 ▲六五銀打

○この岐れとなる時は下手方優勢であります。

【評】下手方五三角ナル以下、飛車を敵地に侵入して攻撃を持続せしは面白し。

◇第四圖以下の指方 (其二) 上手方

- △八七銀ナル ▲四三歩ナル △八八成銀 ▲同 金
- この時四三銀、五五角との二種の指手があります。
- ◇第五圖以下の指方 (其一) 上手方
- △四三銀 ▲同 銀ナル△四七歩打 ▲同 飛 △六五角打 ▲五三銀打 △七二玉 ▲三二成銀

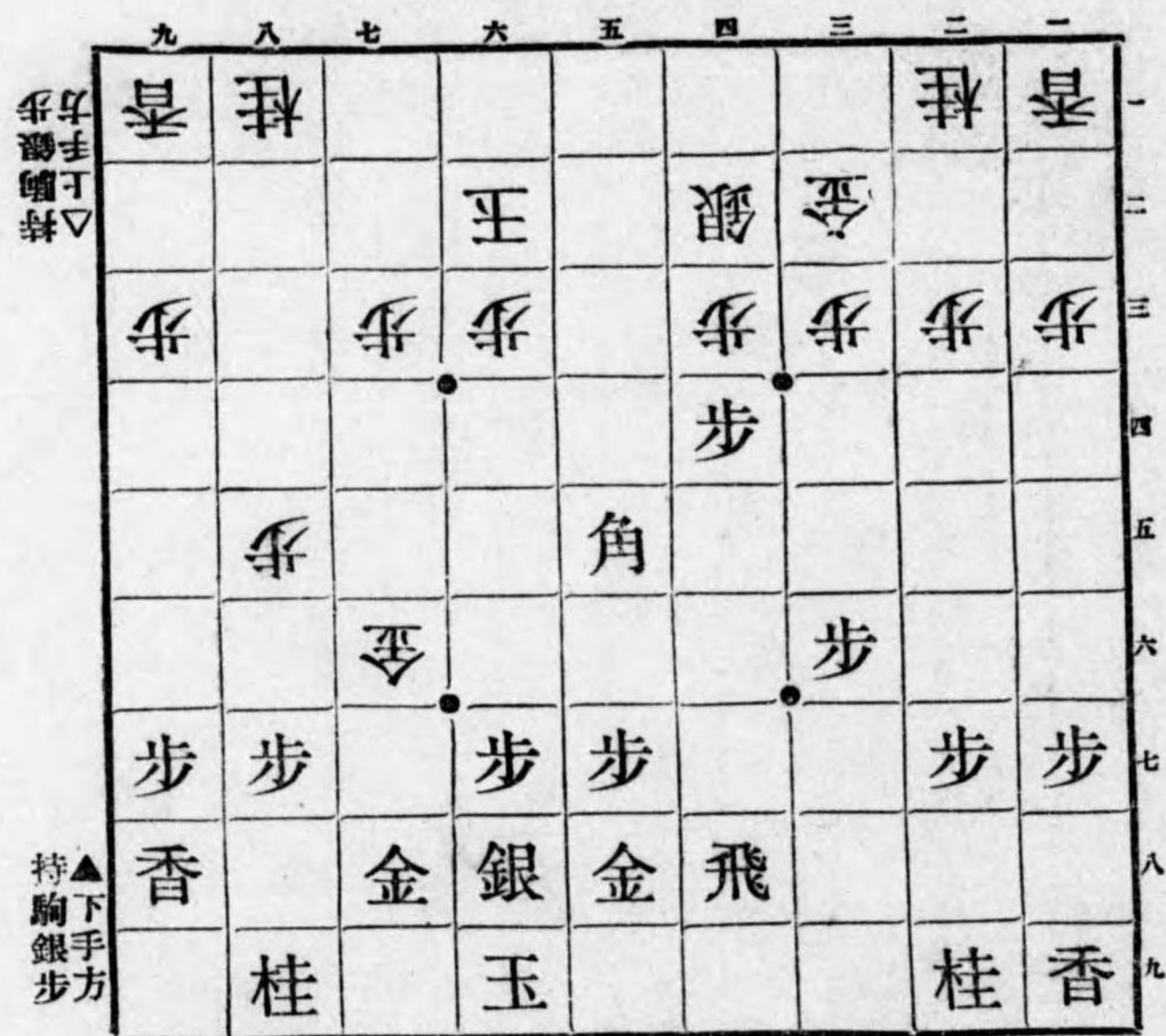
○この岐れとなる時は下手方優勢であります。

○二 枚 落 二 番

前局の變化 上手七六金歩取り

- △六二銀 ▲七六歩 △五四歩 ▲四六歩 △五二金右 ▲四五歩 △五三金
- ▲三六歩 △六四金 ▲四八飛 △五三銀 ▲三八銀 △三二金 ▲三七銀
- △四二銀上 ▲四六銀 △六五金 ▲五八金右 △六二玉 ▲七八金 △八四歩
- ▲六九玉 △八五歩 ▲六八銀 △七六金 ▲九八香 △六四銀 ▲四四歩
- △五五歩 ▲同 銀 △同 銀 ▲同 角
- この時六四銀打、五四銀打との二種の指手があります。
- ◇第六圖以下の指方 (其一) 上手方
- △六四銀打 ▲同 角 △同 歩 ▲五四銀打 △四四歩 ▲六三銀打 △五一玉

(面局の角五五) 圖 六



- ▲四六飛 △七五金 ▲四
- 三步打 △同 銀 ▲五六飛
- △五四銀 ▲同 飛 △四
- 一玉 ▲四三銀打 △同 金
- ▲五二飛 ▲三二玉 ▲四
- 三龍 △四一銀打 ▲五二
- 銀スラ
- この岐れとなる時は下手方全勝となります。
- 【評】 下手方角を六四へ切り次に五四銀と打ち攻勢をと
- り、以下四筋に飛車を上り

(面局の引角七三) 圖七

	九	八	七	六	五	四	三	二	一	
▲ 持駒 銀歩	皇	将						将	皇	一
			王		將	将				二
	将		将	将	将	将	将	将	将	三
				將	步					四
		将								五
			将				步			六
	步	步		步	步		角	步	步	七
			金	銀	金	飛				八
	香	桂		玉				桂	香	九

四三步と打ち、敵に同銀と取らせ、五筋に飛車を轉換せし手段は巧妙なり。

◇第六圖以下の指方 (其二) 上手方

△五四銀打 ▲三七角

○此の時五五歩と四四歩との二種の指手があります。

◇第七圖以下の指方 (其一) 上手方

△五五歩打 ▲二六角 △七二

玉 ▲四一銀打 △三一金 ▲五二銀ナ

○この岐れとなる時は下手方優勢であります。

【評】 下手方四四歩を利用して角の運用に妙味あり。

◇第七圖以下の指方 (其二) 上手方

△四四歩 ▲八二銀打

○この岐れとなる時は下手方指し宜し。

【註】 下手方八二銀打のところ七四歩打にても宜し。すべて二枚落下手方の心得は四枚落と違ひ金銀を早く換り、本譜の如く敵の桂頭へ打込み、桂香二枚を取る手段が肝要である。尤も其の間に上手方より種々仕掛けの手段あれども、無理多きゆる是非指し切りの局面となるものなり。

〇二枚落三番

上手方五二玉繰り

- △六二銀 ▲七六歩 △五四歩 ▲五六歩 △五二金右 ▲四五歩 △五三金
- ▲三六歩 △六四金 ▲四八飛 △五三銀 ▲三八銀 △三二金 ▲三七銀
- △四二銀上ル ▲四六銀 △六五金 ▲五八金右 △五二玉 ▲七八金 △六四銀
- ▲六九玉 △五三銀上ル ▲六八銀 △八四歩 ▲三五歩

○此の時八五歩と七四歩と七六金との三種の指手がありません。

◇第八圖以下の指方 (其一) 上手方

- △八五歩 ▲七七金 △五五銀 ▲同銀 △同歩 ▲八二銀打

○この岐れとなる時は下手方指し宜し。

【評】 下手方七七金と指し、敵に銀を交換する止むなきに至らしめ、桂頭に銀打ち

(面局の突歩五三) 圖八

	九	八	七	六	五	四	三	二	一	
▲上手方 ▲駒ナシ	香	桂					王	令	桂	香
	歩		歩	歩	銀	歩	歩	歩	歩	
		歩		銀	歩					
				令		歩	歩			
		歩				銀				
	歩	歩		歩	歩				歩	歩
		角	金	銀	金	飛				
		桂		玉					桂	香

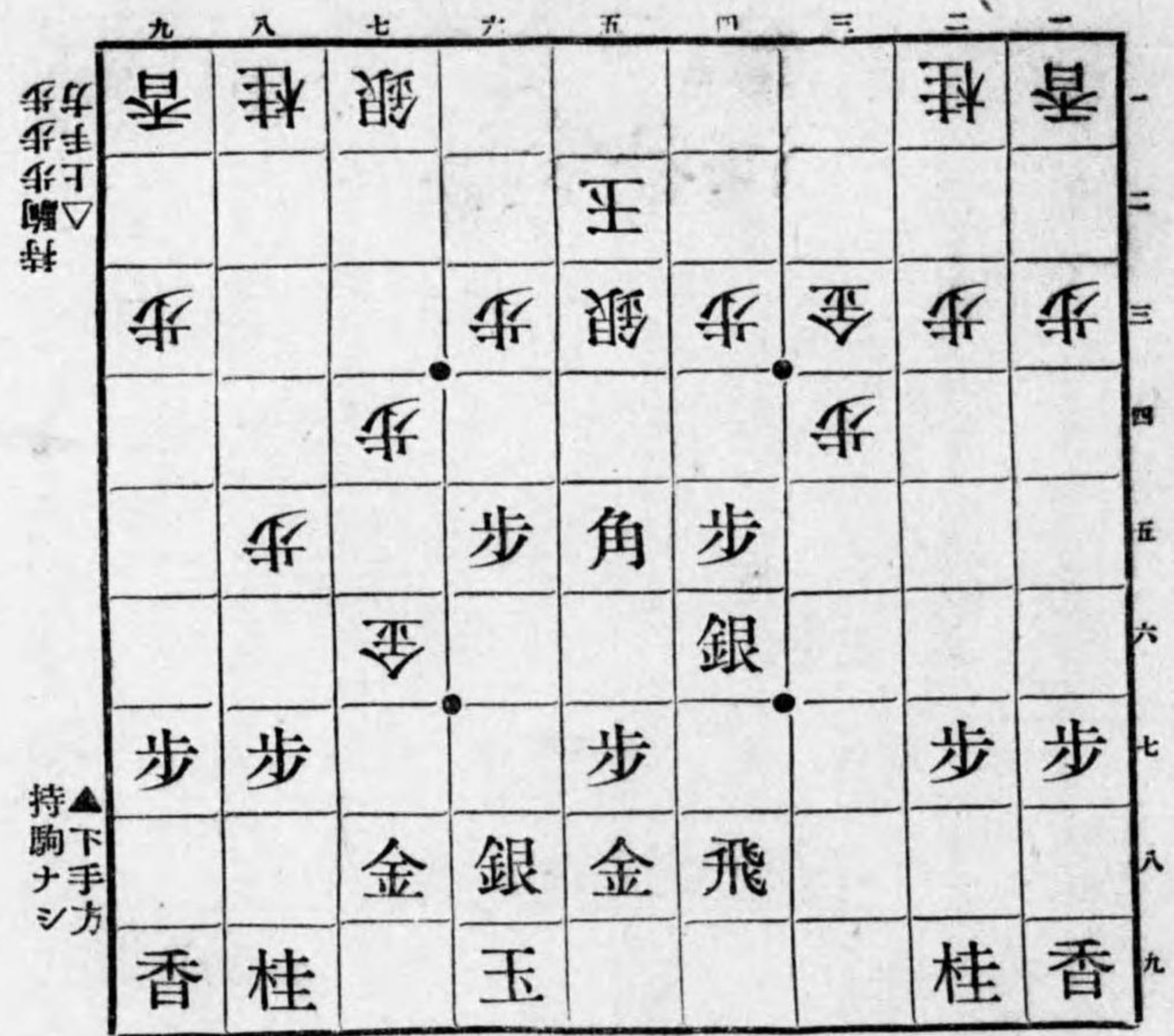
の趣向は面白し。

◇第八圖以下の指方 (其二) 上手方

- △七四歩 ▲三四歩 △五五歩
- ▲六六歩 △七六金 ▲六五歩

○此の時六五同銀と七三銀引との二種の指手があります

(面局の角五五) 圖 十



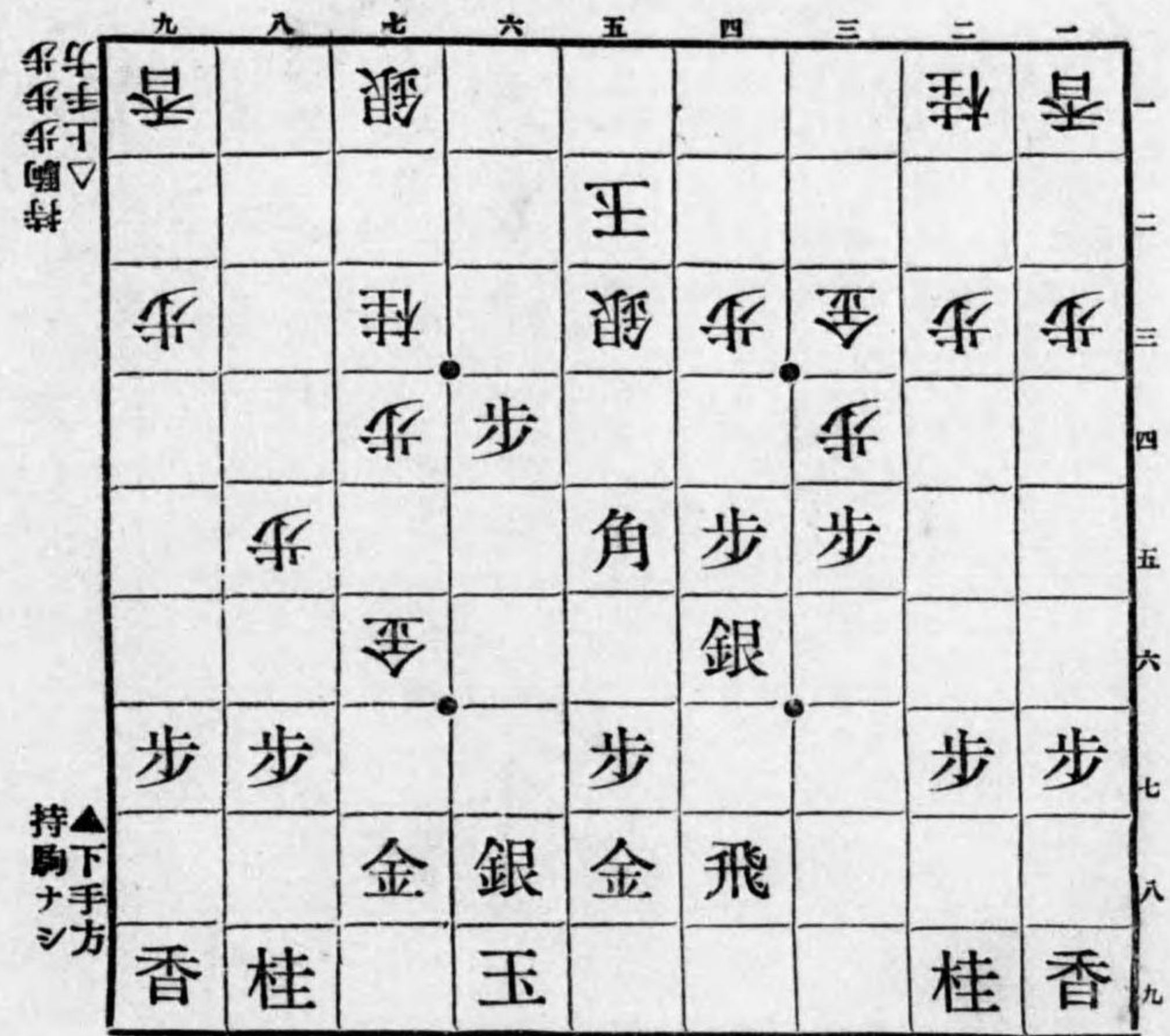
▲七一步△同 銀▲五五角  
 ○此の時八六歩と六四歩との二種の指手があります。  
 【評】 下手方五角出の含みを以て七二歩打ち味ひあり  
 ◇第十圖以下の指方 (其一)  
 上手方  
 △八六歩▲同 歩△八二歩  
 ▲七二歩△五四歩▲三三角  
 △同 桂▲七一步  
 ○この岐れとなる時は下手方

(面局の突歩五六) 圖 九



◇第九圖以下の指方 (其二)  
 上手方  
 △六五銀▲三三歩△同 金  
 ▲三四歩△同 金▲五五角  
 ○この岐れとなる時は下手方優勢であります。  
 ◇第九圖以下の指方 (其二)  
 上手方  
 △七三銀▲五五銀△八五歩  
 ▲九八香△三四歩▲七二歩  
 △六二銀▲四六銀△三三金

(面局の打歩五三) 圖一十



優勢であります。

◇第十圖以下の指方 (其二) 上手方

△六四歩 ▲同歩 △七三桂

▲三五歩

○この時五四歩と五四銀と三五歩との三種の指手があります。

◇第十一圖以下の指方(其一) 上手方

△五四歩 ▲三三角 △同桂

▲六三金 △四二玉 ▲三四歩

○この岐れとなる時は下手方優勢であります。

◇第十一圖以下の指方 (其二) 上手方

△五四銀 ▲三四歩 △五五銀 ▲同銀 △三四金 ▲五四銀

○この岐れとなる時は下手方優勢であります。

◇第十一圖以下の指方 (其三) 上手方

△三五歩 ▲同銀 △三四歩 ▲三三角 △同桂 ▲六三金 △四二玉

▲四四歩

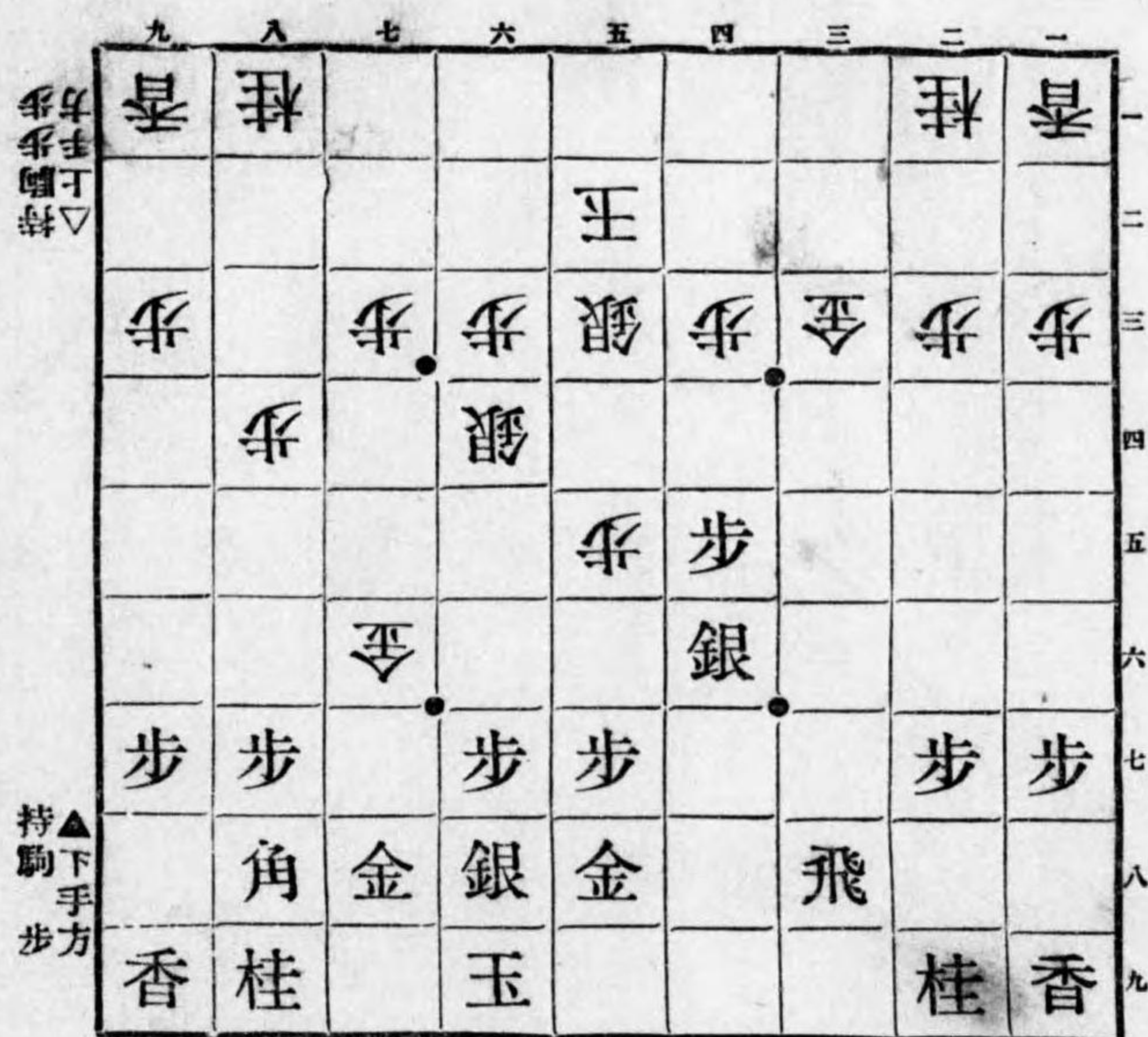
○この岐れとなつても下手方優勢であります。

◇第八圖以下の指方 (圖面参照其三) 上手方

前章の變化上手五五歩留め

△七六金 ▲三四歩 △五五歩 ▲三三歩 △同金 ▲三八飛

(面局のり廻飛八三) 圖二十

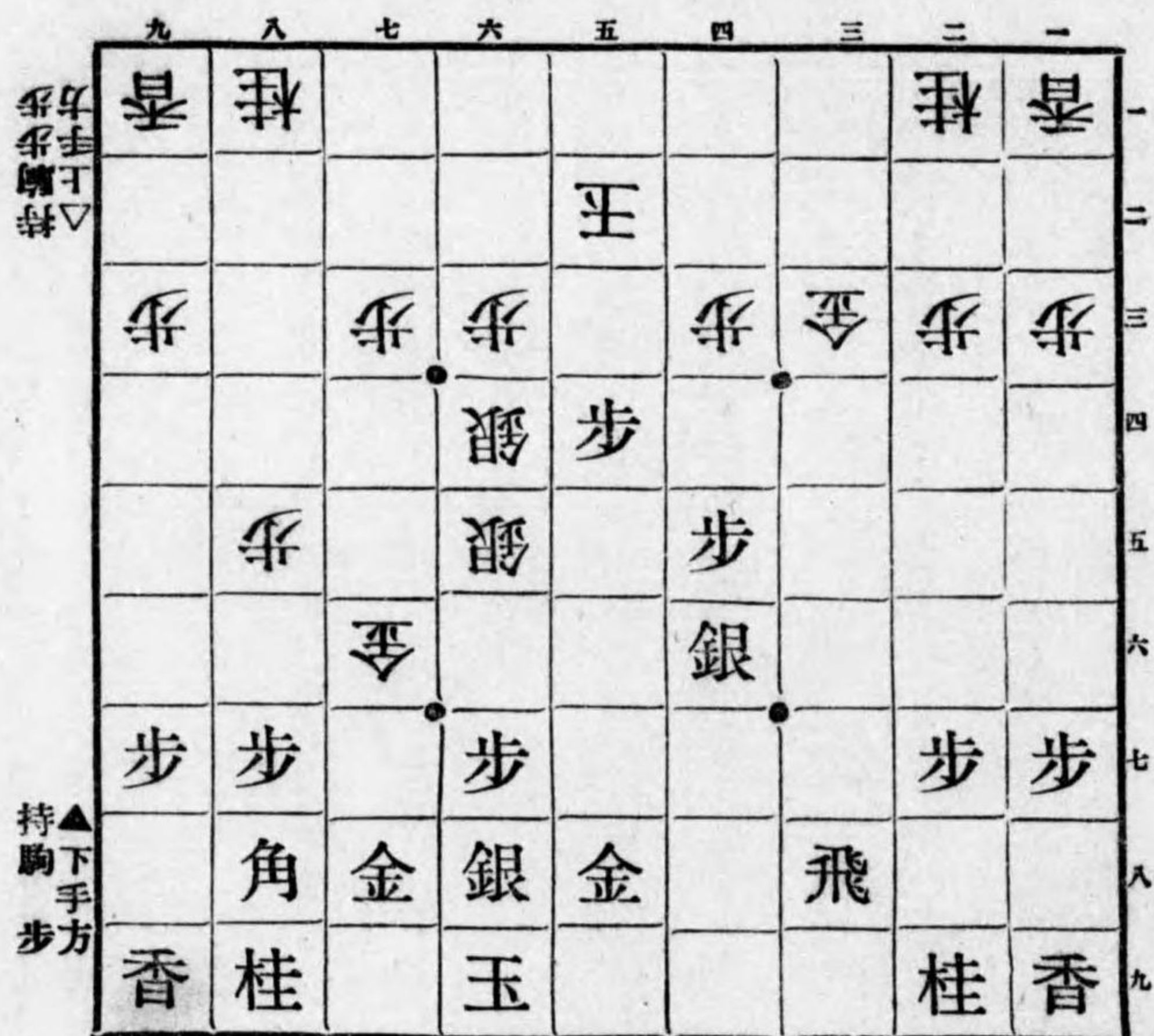


○此の時五四銀と三四歩打との二種の指方があります。

【評】 下手方五五銀の含みをもつて三八飛廻りは其の筋から攻勢をとる方針にて策戦變更せしなり。

- ◇第十二圖以下の指方(其一) 上手方
- △五四銀 ▲三四歩 △三二金
  - ▲五六歩 △八五歩 ▲五五歩
  - △四五銀 ▲三三歩 △同 金
  - ▲五四歩

(面局の歩四五) 圖三十



○この時五五歩と八六歩突きとの二種の指方があります

【評】 下手方三三歩と切捨て角切りの意味を以て五四歩の突出し面白し。

- ◇第十三圖以下の指方(其二) 上手方
- △五五歩 ▲同 銀 △八六歩
  - ▲六四銀 △同 歩 ▲二四歩
- この岐れとなる時は下手方大に宜し。

◇第十三圖以下の指方 (其二) 上手方  
 △八六歩 ▲一一角 △八七歩 ▲同金 △同金 ▲二一馬  
 ○この岐れにても下手方優勢であります。

◇第十二圖以下の指方 (圖面参照其二)  
 △三四歩 ▲三五歩 △同歩 ▲同銀 △五四銀 ▲三六飛 △四五銀  
 ▲三七桂 △八五歩 ▲三四歩

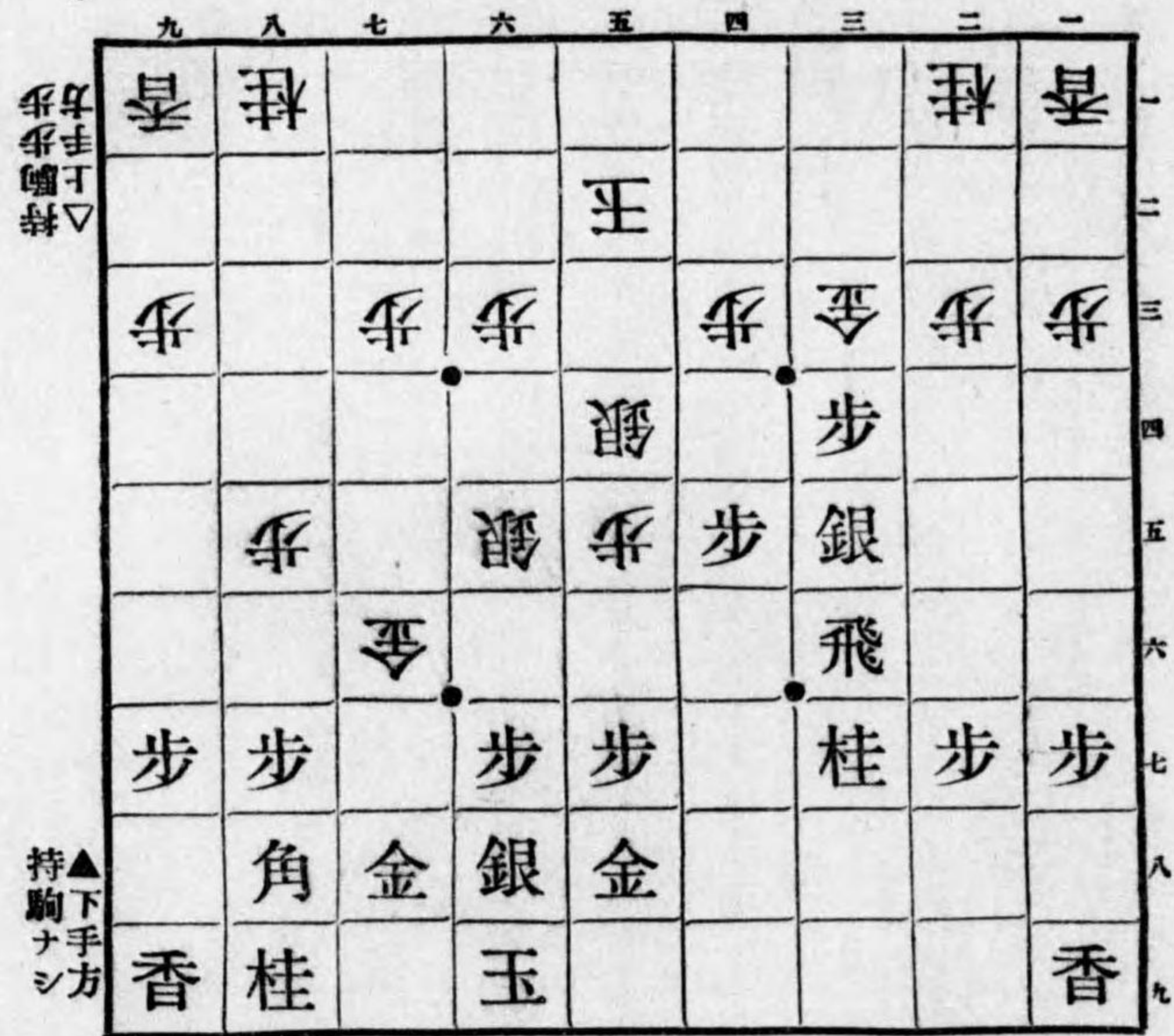
○此の時八六歩突と三二金引との二種の指手があります。

【評】 下手方三六飛と中段に備へ、先手を取り、次に三七へ桂を進みしは尤も堅實なる手段なり。

◇第十四圖以下の指方 (其一) 上手方

△八六歩 ▲同歩 △八七歩 ▲七九角 △三二金 ▲七七桂 △七五金  
 ▲八七金 △五六歩 ▲同歩 △六二玉 ▲七六歩 △七四金 ▲五七銀

(面局の打歩四三) 圖四十



△五五歩 ▲同歩 △同銀  
 ▲六五桂 △同金 ▲五六歩

○この岐れとなる時は下手方優勢であります。

【評】 下手方敵が角頭から攻めて来た時、一旦七九へ角を退却し、桂を七七へ進め以下指手の如く攻勢をとりしは尤も巧妙なる手段なり

◇第十二圖以下の指方 (其二) 上手方



(面局の香八九) 圖五十

	九	八	七	六	五	四	三	二	一
皇	科							科	皇
				王		王			
歩		歩	歩		歩		歩	歩	
				歩		歩			
	歩		歩	歩	歩	銀			
			王			飛			
歩	歩		歩	歩		桂	歩	歩	
香	角	金	銀	金					
	桂		玉						香

△三二金 ▲九八香

○此の時七五金と八六歩突との二種の指手があります。

◇第十五圖以下の指方(其一) 上手方

△七五金 ▲四六銀

○この岐れとなつても下手方指し宜し。

【註】尤も此の末二五桂と飛び、又は五五銀などの指手があります、下手方確かに

に勝であります。

◇第十五圖以下の指方 (其二) 上手方

△八六歩 ▲同歩 △八五歩打 ▲七七銀 △七五金 ▲八五歩 △六二玉

▲八四歩

○この岐れとなる時は下手方優勢であります。

【註】此の末上手方七二玉と寄らんか、下手方二五桂とびにて必勝疑ひありません。

○二枚落四番

上手方五二玉の變化六六歩突留め

△六二銀 ▲七六歩 △五四歩 ▲四六歩 △五二金右 ▲四五歩 △五三金

▲三六歩 △六四金 ▲四八飛 △五三銀 ▲三八銀 △三二金 ▲三七銀

(面局の金八七) 圖六十

	九	八	七	六	五	四	三	二	一
▲上手 △下手	香	桂						桂	香
	歩	歩			王	銀	銀		
	歩	歩	歩	歩	銀	歩	歩	歩	歩
					歩				
				銀		歩			
	歩	歩		歩	歩			歩	歩
		角	金		金	飛			
	香	桂	銀	玉				桂	香

△五二玉 ▲四六銀 △六五金  
 ▲五八金 △四二銀 ▲七八金  
 ○此の時八四歩と七六金との  
 二種の指手があります。

◇第十六圖以下の指方(其一)  
 上手方

- △八四歩 ▲六九五 △八五歩
- ▲六八銀 △七六金 ▲九八香
- △六四歩 ▲三五歩 △六五歩
- ▲五六歩 △六三玉 ▲三八飛
- △六六歩 ▲同 歩 △七四歩

▲六七銀 △同 金 ▲同 金右 △七三桂 ▲六五歩

○この岐れとなる時は下手方指し宜し。

【註】此の末三四歩の突出しにて確かに必勝となります。

【評】下手方三八飛廻り以下、金銀を交換して、六五歩の突出しの妙味ある指手な  
 。

◇第十六圖以下の指方 (其二) 上手方

△七六金 ▲三五歩 △六四歩 ▲三四歩 △六五歩 ▲三三歩 ▲同 銀

▲三四歩打 △二二銀 ▲三五銀

○この岐れとなる時は下手方指し宜し。

【註】此の末上手方六六歩と指せば同歩と取り、以下六八銀と指し、六七銀と交換  
 に出る手もあり、又四六飛と浮き桂を三七へ進める指手もあり、四四歩突出しの  
 含みあれば、下手方宜し。

○二枚落五番

上手方五五歩早留め

- △六二銀 ▲七六歩 △五四歩 ▲四六歩 △五二金右 △四五歩 △五三金
- ▲三六歩 △六四金 ▲四八飛 △五三銀 ▲三八銀 △四二銀上 ▲三七銀
- △五五歩 ▲四六銀 △五四銀 ▲五八金右 △五三銀 ▲六八銀 △四二金
- ▲七七銀

○此の時六五銀 六五金との二種の指手があります。

- △六五銀 ▲六六銀 △同銀 ▲同角 △五四銀 ▲八八角 △六五銀打
- ▲八二銀打

○この岐れとなる時は下手方指し宜し。

【評】 下手方敵の五五歩を捕虜にする目的を以て銀を六六に進み、銀を交換して六

(面局の銀七七) 圖七十

	九	八	七	六	五	四	三	二	一	
▲上手方	皇	科			王			科	皇	▲下手方
▲持駒ナシ						馬				
	歩	歩	歩	歩	馬	歩	歩	歩	歩	
				馬	馬					
					歩	歩				
	歩	歩	銀	歩	歩			歩	歩	
		角								
	香	桂		金	玉			桂	香	

六銀打の含みにて一旦八八角と退却し、敵が六五銀と打ち、攻防策をとつた場合八二銀と打ち、桂香を捕虜にする方針をとりしは習ある良手であります。

◇第十七圖以下の指方(其二) 上手方

- △六五金 ▲六六銀 △七六金
- ▲七八金 △六六金 ▲同角
- △六四銀 ▲八八角 △七四歩
- ▲六六金打

○この岐れとなる時は下手方指し宜し。  
 【註】 この末下手方五五の敵歩を取らば指し易し。上手方七四歩の處四五銀打ならば八二金打にて下手方指し宜し。

○飛 香 落 一 番

上手居角七五歩突四四角替

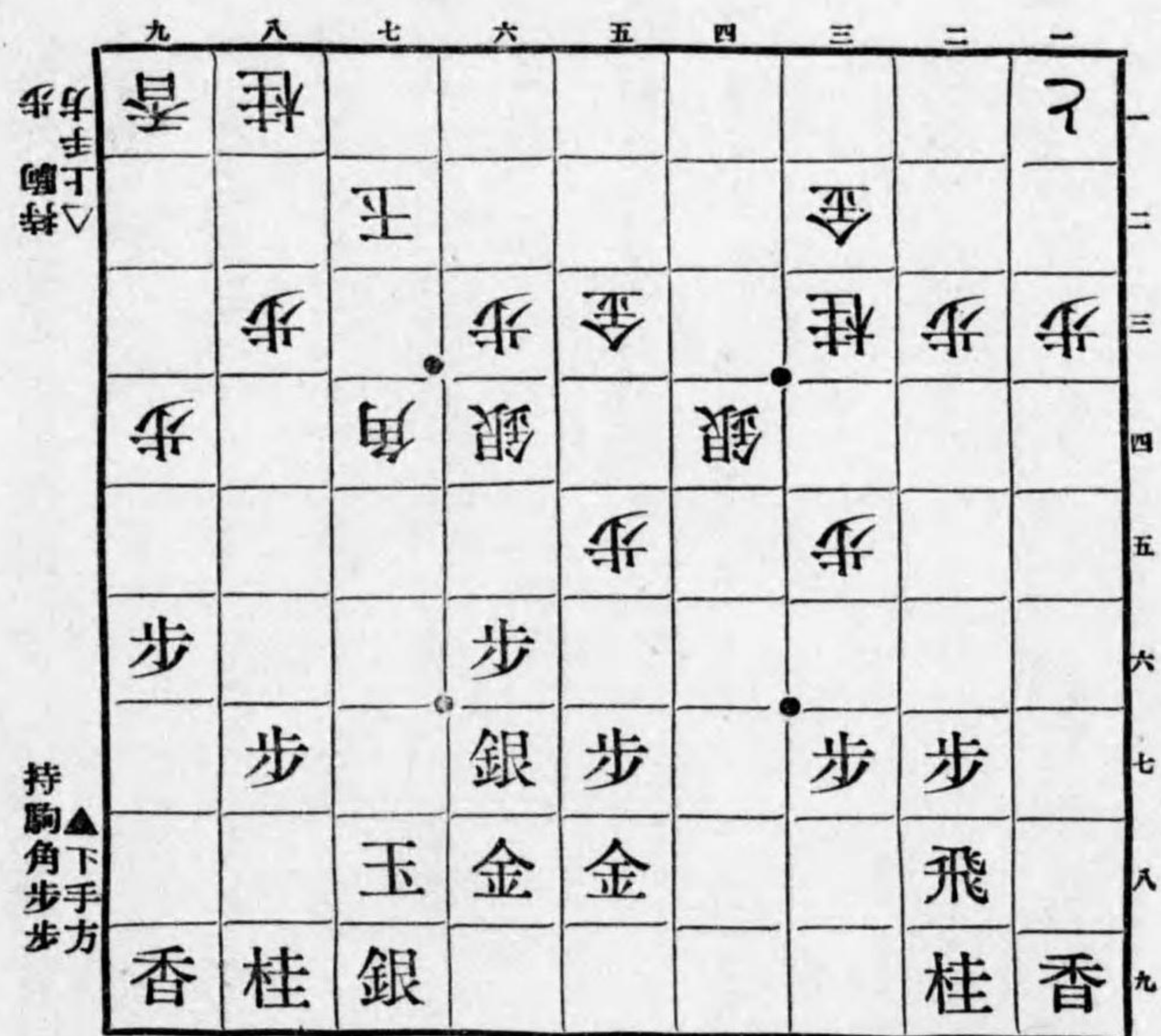
- △三四歩 ▲七六歩 △四四歩 ▲一六歩 △四二銀 ▲一五歩 △四三銀
- ▲四八銀 △五四歩 ▲四六歩 △六二銀 ▲四七銀 △五三銀 ▲一八飛
- △六二玉 ▲一四歩 △同歩 ▲同飛 △一三歩打 ▲一八飛 △七二玉
- ▲五六銀 △三二金 ▲四八飛 △三五歩 ▲六八金 △六二金 ▲六九玉
- △六四銀 ▲七八玉 △五三金 ▲一二歩打 △七四歩 ▲五八金右 △九四歩
- ▲九六歩 △七五歩 ▲同歩 △同銀 ▲四五歩 △六四銀 ▲四四歩

(面局の歩四四) 圖 一

	九	八	七	六	五	四	三	二	一
▲上手方	香	桂	銀					桂	香
	歩	角	玉	金	金	飛			
	歩		歩	歩	銀				
	歩								
	歩	歩		歩	歩	歩		歩	歩
▲下手方									
持駒	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩

○この時四四同角と同銀との二種の指手があります。  
 【註】 本譜の如く上手方より四三銀と早く上る場合は、下手も四七銀と早く繰り上ります。端歩を先き替る時は上手方は五五歩と突き留める手順になりますから、面白くありません。  
 【評】 下手方一筋の歩を交換して四筋に飛車を轉換し、一四兩筋と連絡を保ち、攻

(面局の飛) 圖二



撃準備のため一二歩打は飛  
香落將棋には習ひある良  
き手段です。

◆第一圖以下の指方 (其一)  
上手方

- △四四角▲同 角△同 銀
- ▲一歩△三三桂▲六六歩
- △五五歩▲六七銀△七四角打
- ▲二八飛

○此の時四六歩打と三六歩突  
きとの二種の指手がありま  
す。

【評】 下手方敵の三三桂に對し六六歩突きは六七へ退却して自衛を固める意味があ  
つて確實です。

◆第二圖以下の指方 (其一) 上手方

- △四六歩打▲四八歩打△三六歩 ▲同 歩 △三八歩打▲一八飛 △二二金
- ▲三一角打△三二金 ▲一三角ナル△三九歩ナル▲四六歩 △二二金 ▲一二と
- △三二金 ▲二一と

○この岐れとなる時は下手方優勢であります。

【評】 下手方一八飛と廻り敵二二金の時三一角打以下の手段は尤も巧妙です。

◆第二圖以下の指方 (其二) 上手方

- △三六歩 ▲同 歩 △三八歩打▲一八飛 △二二金 ▲四五歩打△同 桂
  - ▲四六歩打△三九歩ナル▲四五歩 △同 銀 ▲六五桂打
- この岐れとなる時は下手方優勢であります。

○變化四五同桂の處

△同 銀 ▲七五歩打

○この岐れとなる時は三一角打の意味がありますから下手方優勢であります。

◇第一圖以下の指方 (圖面参照其二)

前章の變化角替らす

△四四銀 ▲一歩ナル△同 角 ▲四五銀 △五五歩 ▲一二歩打△二二角

▲四四銀 △同 金 ▲一歩ナル△同 角 ▲一二銀打△三三角 ▲二二銀ナラ

○此の時二二金と四三金と四二金との三種の指手があります。

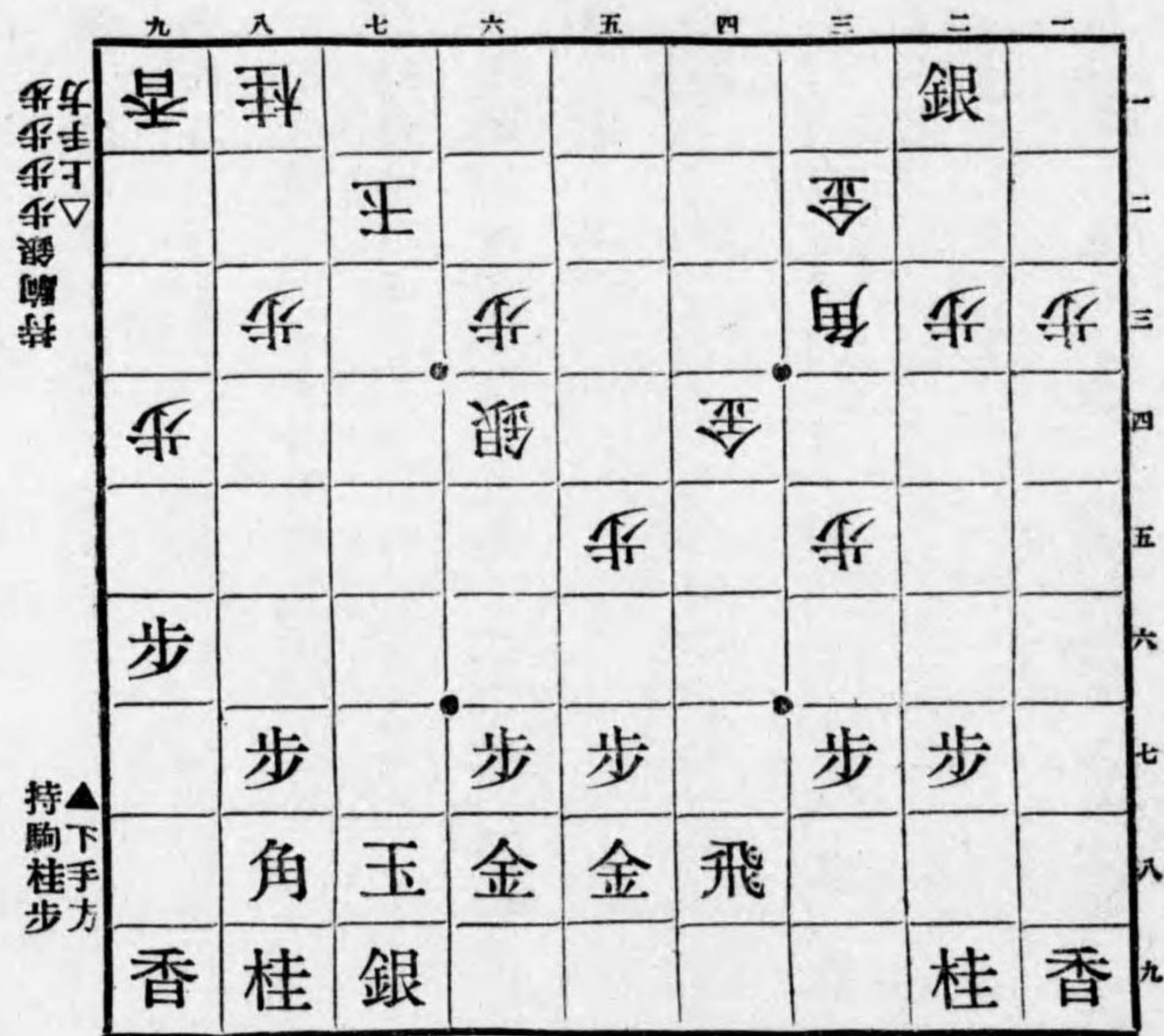
【評】 下手方一歩とナリ捨て同角にて取らせ四五銀と攻勢に出で、敵が五五歩と

留めた時再び一二歩と打ち、以下指手の如く攻撃手段をとりしは巧妙です。

◇第三圖以下の指方 (其一) 上手方

△二二金 ▲五六桂打△四七歩打▲同 飛 △四六歩打▲同 飛 △四五歩打

(面局のズラナ銀一二) 圖 三



▲六四桂△同 歩▲七六飛

△七三歩▲一三香△二一金

▲二三香△五一角▲五三銀

○この岐れとなる時は下手方

優勢であります。

【評】 下手方五六桂と打ち敵

が四筋を防禦せし時六四桂

と飛び、飛車を七筋に轉じ

以下香を一三へナリ込み攻

撃せし手段は巧妙です。

◇第三圖以下の指方 (其二)

上手方

- △四三金 ▲三二銀ナシ △二四角 ▲五六桂ナシ △四七歩ナシ ▲同飛 △四六歩ナシ
- ▲同飛 △四五歩ナシ ▲六四桂 △同歩 ▲七六飛 △七三歩ナシ ▲九七角
- △五四金 ▲四四歩 △同金上ル ▲三三銀ナシ

○この岐れとなる時は下手方優勢であります。

【評】 下手方九七角以下の手段は尤も面白し。

◇第三圖以下の指方 (其三) 上手方

- △四二金 ▲二五桂ナシ

○この岐れとなりましても下手方優勢であります。

○飛 香 落 二番

- 上手方五二金左受け
- △三四歩 ▲七六歩 △四四歩 ▲一六歩 △五四歩 ▲一五歩 △四二銀

(面局の金八六) 圖 四

	九	八	七	六	五	四	三	二	一	
▲上手方 持駒	香	桂	銀		玉	金		桂	香	
	歩	角		歩	飛					
	歩	歩		歩	歩					
			歩		銀	歩				
	歩	歩		歩	歩					
	歩	歩	歩	歩	銀	銀	角	歩		
			王							
▲下手方 持駒	桂	桂		金	金			桂		

- ▲四八銀 △四三銀 ▲四六歩
- △六二銀 ▲四七銀 △五三銀
- ▲一八飛 △六二玉 ▲一四歩
- △同歩 ▲同飛 △一三歩
- ▲一八飛 △七二玉 ▲五六銀
- △三三角 ▲四八飛 △三五歩
- ▲六八金

○此の時五二金と四二金との二種の指手があります。

◇第四圖以下の指方 (其一)

- △五二金 ▲六九五 △六四銀

- ▲七八玉 △五五金 ▲五八金右 △六二金 ▲二六歩 △九四歩 ▲九六歩
- △七四歩 ▲一三香ナル △同 桂 ▲一四歩 △二四角 ▲一三歩ナル △同 角
- ▲一八飛 △一二歩打 ▲二五桂打

○この岐れとなる時は下手方指し宜し。

【註】本譜の如く上手方五二金左と早く上る時は先づ下手方一二歩打見合すべし。

【評】下手方陣容を整備し、手薄き敵の一筋から攻勢をとりしは尤も當を得たる良策です。

◇第四圖以下の指方 (其二) 上手方

前章の變化四二金受け

- △四二金 ▲六九玉 △六四銀 ▲五八金右 △九四歩 ▲九六歩 △五五歩
- ▲同 銀 △同 銀 ▲同 角 △三六歩 ▲同 歩 △四五歩 ▲三三歩ナル
- △同 桂 ▲一三香ナル △四六歩 ▲二三香 △四五桂 ▲一八飛 △七四角打

- ▲一二飛ナル △三二歩打 ▲四四歩打 △四七歩ナル ▲四三歩ナル △五八と ▲同 金
- △二九角ナル ▲四二と △四六桂打 ▲二一龍

【註】この岐れとなる時は下手方優勢であります。此の末たしかに寄せ手があります。

【評】下手方敵地に飛車を侵入して、以下の手段は尤も強味があります。

飛 香 落 三 香

上手方五二玉

- △三四歩 ▲七六歩 △四四歩 ▲一六歩 △三二金 ▲一五歩 △五二金
- ▲一八飛 △四三金右 ▲一四歩 △同 歩 ▲同 飛 △一三歩打 ▲一八飛
- △五四歩 ▲四八銀 △六二銀 ▲四六歩 △五三銀 ▲四七銀 △三三角
- ▲一二歩打



(面局の突歩五七) 圖 六

九	八	七	六	五	四	三	二	一
▲△							桂	
				王	金	銀	歩	
歩	歩	角	歩	銀	金	歩	歩	
		歩		歩	歩	歩		
		歩	銀					
					歩	歩		
歩	歩		歩	歩			歩	
	角				飛			
香	桂	銀	金	玉	金		桂	香

▲△ 下手方  
持駒ナシ

指し宜し。

【註】此の末四五歩の突出しにてよし、尤も上手方より七五歩と突けば同步、同銀の時矢張り四五歩突きにて下手方指し宜し。

◇第五圖以下の指方（其二）上手方

△五二玉 ▲三六歩 △二二銀  
▲五六銀 △七四歩 ▲四八飛  
△五一角 ▲六五銀 △七三角  
▲七五歩

(面局の打歩二一) 圖 五

九	八	七	六	五	四	三	二	一
▲△	桂			王		銀	桂	
						金		歩
歩	歩	歩	歩	銀	金	角	歩	歩
				歩	歩	歩		
		歩			歩			
歩	歩		歩	歩	銀	歩	歩	
	角							飛
香	桂	銀	金	玉	金		桂	香

▲△ 下手方  
持駒ナシ

○此の時四二銀上ル、五二玉との二種の指手があります

◇第五圖以下の指方（其一）上手方

△四二銀 ▲上ル 三六歩 △六四銀  
▲五六銀 △五三銀 ▲上ル 四八飛  
△五二玉 ▲五八金 △右 七四歩  
▲七八金 △八四歩 ▲六九五  
△八五歩 ▲六八銀 △九四歩  
▲九六歩

○この岐れとなる時は下手方

○この時四五歩、七五同步との二種の指手あり。

【評】 上手方角を活動するため五一に引きし時、下手方六五銀と指し、七三角に對し七五歩突き含みあり。

◇第六圖以下の指方（其一） 上手方

- △四五歩 ▲一一步 ナル △四六角 ▲二一と △三三銀 ▲四六飛 △同歩
- ▲五八金左

○此の岐れとなる時は下手方指しよし。

【評】 下手方四六飛と切り五八金左は堅實なり。

◇第六圖以下の指方（其二） 上手方

- △七五歩 ▲七四銀 (イ) △六四角 ▲八三銀 ナル △三三金 上ル ▲七四銀 ナル △八二角
- ▲六八金 △四五歩 ▲七三歩 打 △同 桂 ▲八三成銀

○この岐れとなる時は下手方優勢であります。

【註】 下手方八三銀ナラズと指し、以下七四へ成戻り活動を計りし手段は味ひがありません。

○變化（イ）六四角の處 上手方

- △八二角 引 ▲八三銀 ナラ △五五角 七二銀 ナラ

○この岐れとなる時は下手方指しよろし。

### ○飛 香 落 四 番

上手方二三金留め下手方一二兩筋早仕懸け

- △三四歩 ▲七六歩 △四四歩 ▲一六歩 △三三金 ▲一五歩 △二四歩
- ▲二六歩

○此の時二二金と三三角との二種の指手があります。

(面局の歩六二) 圖七

九	八	七	六	五	四	三	二	一	
香	桂	銀	金	玉		銀	桂	桂	一
							角		二
步	步	步	步	步	步	金	步	步	三
					步	步	步		四
								步	五
		步			銀	步	步		六
步	步		步	步	步	步			七
	角						飛		八
香	桂	銀	金	玉	金		桂	香	九

△持駒ナシ

▲下手法持駒ナシ

【評】本譜の如く上手二四歩と突いて端歩を替らせぬ策をとりし時は、二六歩と突いて飛車先から攻勢をとる方下手方よろし。

◇第七圖以下の指方(上手方)

△二三金 ▲三八銀 △三二銀

▲二七銀 △四三銀 ▲三六銀

○此の時三三角と三三桂との二種の指方があります。

(面局の銀六三) 圖八

九	八	七	六	五	四	三	二	一	
香	桂	銀	金	玉			桂	桂	一
							角		二
步	步	步	步	步	銀	金	步	步	三
					步	步	步		四
								步	五
		步				銀	步		六
步	步		步	步	步	步			七
	角						飛		八
香	桂	銀	金	玉	金		桂	香	九

△持駒ナシ

▲下手法持駒ナシ

◇第八圖以下の指方 (其一)

上手方

△三三角 ▲二五歩 △同 歩

▲一四歩 △同 歩 ▲二五銀

△二四歩 ▲一四銀 △同 金

▲同 香 △一三歩 ▲同 香

△同 桂 ▲二三金 △四二角

▲一八飛

○この岐れとなる時は下手方優勢であります。

【註】但し此の駒組は上手方の受け方無理多きゆゑ、は

(面局の王八六) 圖九

九	八	七	六	五	四	三	二	一
皇	将	銀	金	王				
							角	
歩	歩	歩	歩	歩	銀	将	金	歩
					歩	歩	歩	
								歩
		歩				銀	歩	
歩	歩		歩	歩	歩	歩		
	角		玉				飛	
香	桂	銀	金		金		桂	香

▲皇  
▲将  
▲銀  
▲金  
▲王

▲下  
▲手  
▲方  
▲持  
▲駒  
▲ナ  
▲シ

じめうちちに下手方より仕掛  
けの手順多し、よく／＼工  
夫あるべし。

◇第八圖以下の指方 (其二)  
上手方

△三三桂 ▲六八玉

○此の時五四歩と五二金との  
二種の指手があります。

◇第九圖以下の指方 (其一)  
上手方

△五四歩 ▲一七桂 △三一角

- ▲二五歩 △六四角 ▲三八金 △二五歩 ▲同 桂 △二四歩打 ▲一三桂
- ▲同 金 ▲一四歩 △二五桂打 ▲一三歩 ▲三三七桂 ▲二四飛 △三八成桂
- ▲二三と

○この岐れとなる時は下手方指し宜し。

【註】 上手方は居玉ゆるに寄り筋多くあり、下手方は始めに六八玉と一手上つて置いたゆる急に寄り難し。すべて玉は早く繰ることが肝要です。但し上手方より最初に五四歩と早く突出す手あり、其時はいづれの手順にても必ず早く一七桂と上りて指すべし。

【評】 下手方一七桂跳ね妙味あり、敵の六四角に對し三八金と受け、その金を犠牲にして一二兩筋を撃破して飛車の侵入策を計りし手段は巧妙なり。

◇第九圖以下の指方 (其二) 上手方

- △五二金 ▲四六歩 △六一玉 ▲五八金右 △七二玉 ▲七八玉 △六二銀

(面局の桂五二) 圖十



▲一七桂△五四歩▲二五歩  
△同歩▲同桂

○此時二五同桂と二四歩打との二種の指手があります。

【評】 下手法四六歩と突いて敵桂角の働きを豫防し、味方の銀の活動力を手廣くして陣容を整へ、一七桂跳ね以下攻撃に着手せしは堅實なる指手であります。

◆第十圖以下の指方(上手法)

△二五桂 ▲同銀 △四五歩 ▲二二角ナル△同金 ▲三四銀

○この岐れとなる時は下手法優勢であります。

◆第十圖以下の指方 (其二) 上手法

△二四歩打 ▲一三桂ナル△同角 ▲一四歩 △三一角 ▲一三歩ナル△同金

▲同 香ナル△同角 ▲二三金打

○此岐れとなる時は下手法優勢である。

○變化(イ)一三歩ナル時▲同金の處 上手法

△同角 ▲同 香ナル△同金 ▲四五歩 △同桂 ▲同銀 △同歩

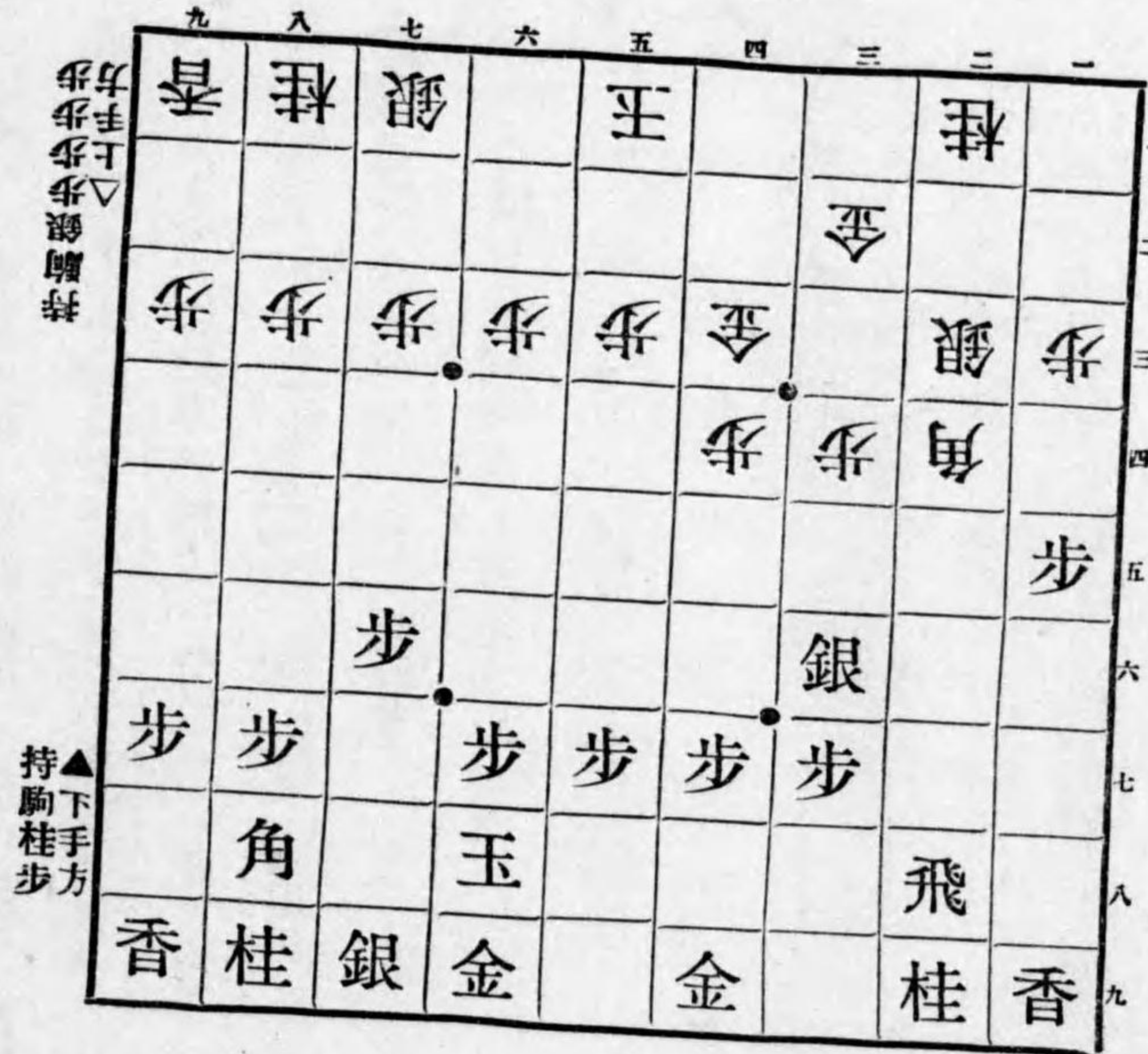
▲八八角ナル

○此岐れとなる時は矢張下手法優勢である。

【評】 下手法敵金の放れある含みを利用して四筋から攻勢を採りし手段は巧妙なり

◆第七圖以下の指方 (圖面参照) 其二

圖一十 (面局の王八六)



前章の變化上手三三留め

- △三三角 ▲三八銀 △五二金
- ▲二七銀 △二二銀 ▲三六銀
- △二三銀 ▲二五歩 △六三金
- ▲二四歩 △同 角 ▲六八玉

○此時四二角と三三角との二種の指手あり。

【評】 下手方敵二四角の時幸便に六八玉は堅實なり。

- ◇第十一圖以下の指方(其一) 上手方
- △四二角 ▲一四歩 △同 歩

- ▲二五銀 △二四歩打 ▲一四銀 △同 銀 ▲同 香
  - △同 桂 ▲一四歩打 △二五桂 ▲一三歩 ナル △五四歩 ▲二三歩打 △六四角
  - ▲二二歩 ナル △三七桂 ナル ▲一八飛
- 【註】 此岐れとなる時は成歩を活用して飛車を敵地に侵入することが出来れば下手方優勢である。三七桂ナルの處不成ならば三二とにてよろし。

◇第十一圖以下の指方 (其二) 上手方

- △三三角 ▲一四歩 △同 歩 ▲二五銀 △二六歩打 ▲二四歩打 △同 銀
- ▲同 銀 △同 角 ▲二六飛 △二三歩打 ▲二八飛 △五四歩 ▲二五銀打
- △四二角 ▲一四銀 △二四歩 ▲二五歩打 △同 歩 ▲二四歩打 △同 角
- ▲二五銀 △四二角 ▲三四銀 △同 金 ▲二一飛 ナル △三一銀打 ▲一三香 ナル

○此岐れとなる時は下手方優勢である。

【評】 下手方敵の二六歩打に對し二四歩と打銀を交換して二六に飛車を出て先手を

取り、穩かに二八飛と引き以下、二筋に於て歩を巧みに利用し銀の活動を計り敵陣を破りし手段は尤も巧妙なり。

### ○飛車落

上手方三三桂留め四手繰り角、下手四間

- △三四歩 ▲七六歩 △四四歩 ▲四八銀 △三二金 ▲四六歩 △四二銀
- ▲四七銀 △五四歩 ▲五六銀 △四三銀 ▲四八飛 △三三桂 ▲三六歩
- △六二玉 ▲五八金右 △七二玉 ▲六八玉 △六二銀 ▲三七桂

○此時九四歩と五二金との二種の指手あり。

(面局の桂七三) 圖一

	九	八	七	六	五	四	三	二	一
▲下 手方	香	桂	銀	金					香
▲下 手方			玉	銀	金	角	桂	角	
	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	
					歩	歩	歩		
			歩	銀	歩	歩	歩		
	歩	歩		歩	歩	桂	歩	歩	
		角		玉	金	飛			
▲下 手方	香	桂	銀	金				桂	香

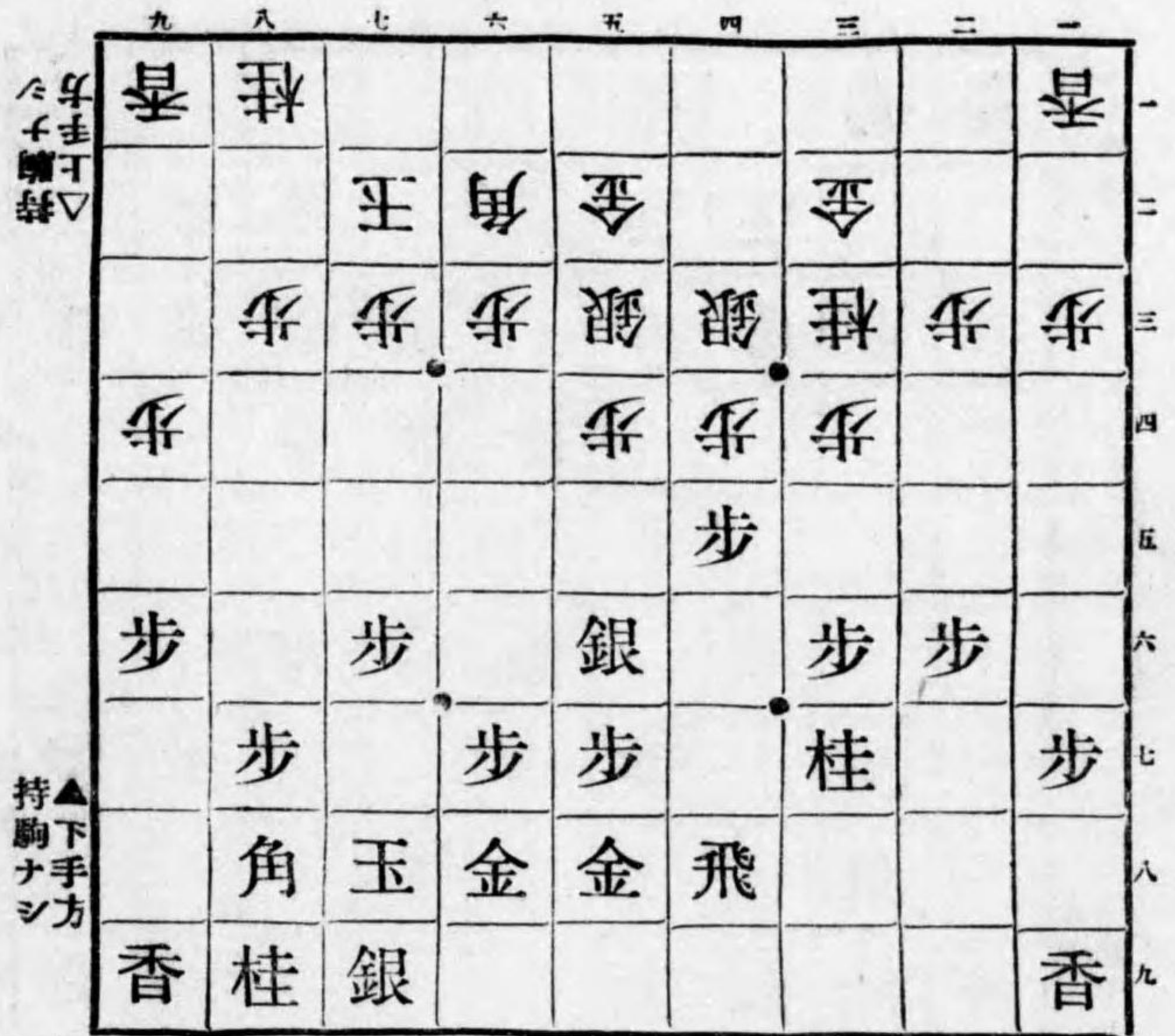
◇第一圖以下の指方 (其二)

- 上手方
- △九四歩 ▲九六歩 △三一歩
- ▲六五銀 △五三銀 ▲五六銀
- △四二角 ▲七八玉 △五一角
- ▲四五歩 △六二角 ▲六八金
- △五二金 ▲二六歩

○此の時七四歩と一二香との二種の指手あり。

【評】 下手方六五銀と敵の角出を妨げる手段は面白し。

(面局の歩六二) 圖 二



△下  
△手  
△方  
持駒ナシ

▲下  
▲手  
▲方  
持駒ナシ

以下五六へ引き陣容を整へ  
五一角引に對し直に四五歩  
の仕懸けは時機可し。

◇第二圖以下の指方 (其一)  
上手方

△七四歩▲四四歩△同 銀右

▲四五歩△五三銀▲二五桂

△同 桂▲同 歩

○此岐れとなる時は下手方指  
しよろし。

【評】 下手方四筋に位を取り

二五桂と跳ね交換して同歩  
と穩かに指し先手を取りし  
所に妙味あり。

◇第二圖以下の指方 (其二)  
上手方

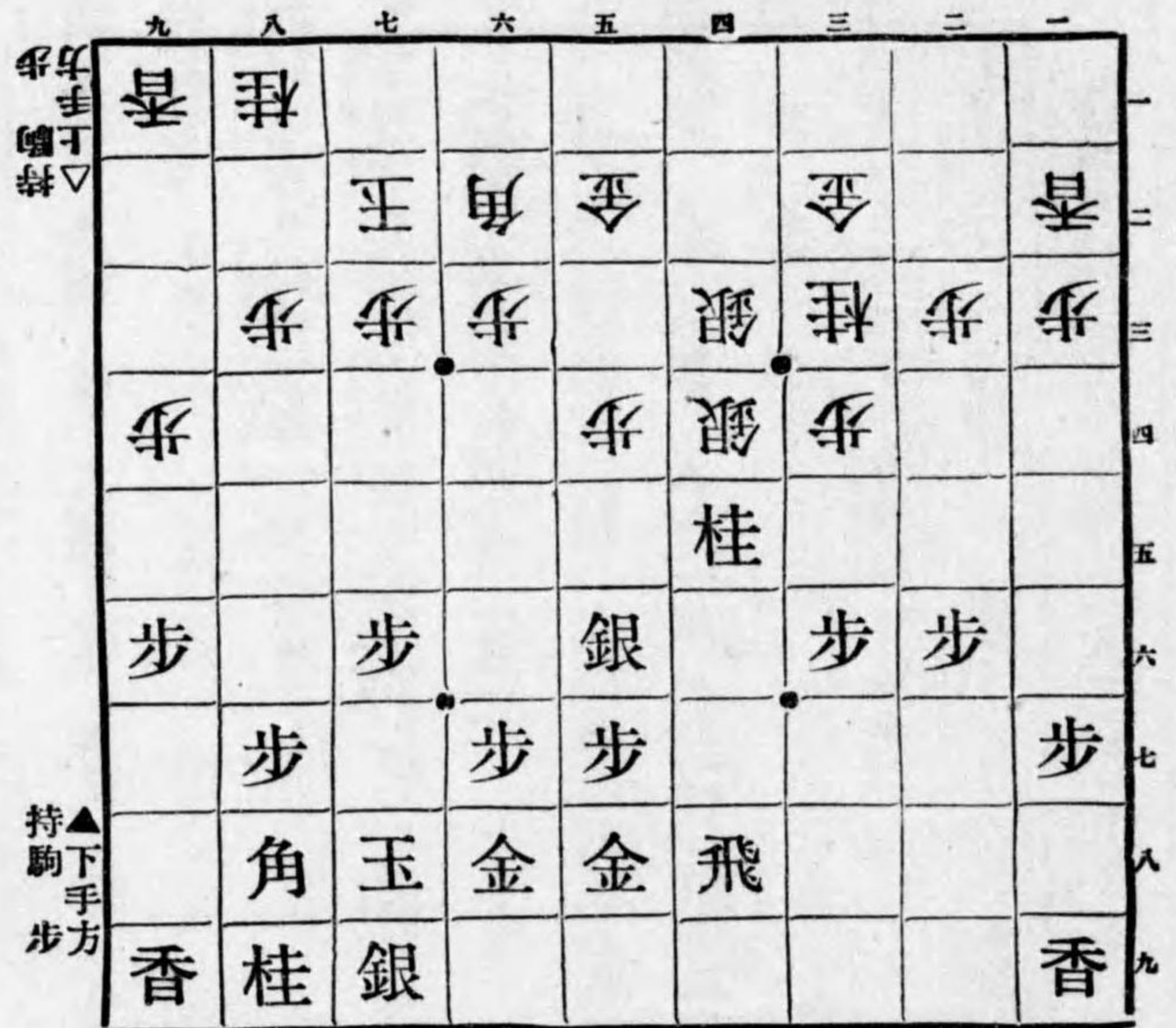
△一二香▲四四歩△同 銀右

▲四五桂

○此時同桂、五五歩、二四歩  
との三種の指手あり。

【評】 上手方一二香上りは習  
ひある指手である。

(面局の桂五四) 圖 三



△下  
△手  
△方  
持駒ナシ

▲下  
▲手  
▲方  
持駒ナシ



◇第三圖以下の指方 (其一) 上手方

△四五桂 ▲同 銀 △同 銀 ▲同 飛 △四四步打 ▲四九飛 △七四步  
▲四五步打

○此岐れとなる時は下手方指しよろし。

【評】 下手方六五步打肝要なる手段にして面白し。

◇第三圖以下の指方 (其二) 上手方

△五五步 ▲三三桂ナル△同 金 ▲二五挂打△三二金 ▲四五步打△五六步  
▲四四步 △五四銀 ▲四一銀打△四二金左 ▲五二銀ナル△同 金 ▲四二步ナル  
△同 金 ▲三三桂ナル

○此岐れとなる時は下手方優勢である。

【註】 下手方敵の五五步突きに對し三三桂ナル以下の手段は尤も巧妙なる指手なり

◇第三圖以下の指方 (其三) 上手方

△二四步 ▲三三桂ナル△同 銀 ▲二五步 △同 步 ▲二四桂打△同 銀  
▲四四步打

○此岐れとなる時は下手方指しよろし。

【評】 上手方敵の二四桂打に對し二二金と寄る時は下手には二三步打同金四三飛ナル同金三二銀打の指手あり。二四銀と桂を取らずして四二金左と指す方優れり。

◇第一圖以下の指方 (圖面参照) 其二

前章の變化上手五五銀早換り

△五二金 ▲七八銀 △九四步 ▲九六步 △五三銀 ▲八六步 △六四銀  
▲八七銀 △五三金 ▲七八玉 △五五步 ▲同 銀 △同 銀 ▲同 角  
△三五步 ▲同 步 △五四金 ▲三三角 △三六銀打 ▲三八銀打△三一角  
▲四七金 △同 銀 ▲同 銀 △六四角 ▲五六銀 △三六金打 ▲五五銀打  
△三七金 ▲一八飛 △五五金 ▲同 銀

(面局の銀同五五) 圖 四



○此時三一角と四二角引との二種の指手あり。

【評】上手方歩損をして敵の桂頭を攻めんとせしに對して下手方は二歩を得て桂を犠牲にして中央に於て攻勢を採りし手段は巧妙なり。

◇第四圖以下の指方 (其一) 上手方

- △三一角▲三四歩△同 銀
- ▲四四銀

【註】此岐れとなる時は上手

の金銀放れある故下手方優勢である。

◇第四圖以下の指方 (其二) 上手方

△四二角 ▲四四銀 △同 銀 ▲同 角 △五三銀打 ▲六六角

【註】此岐れとなる時は下手方優勢である。此末下手方五二金打ちの手もあり、又三四歩突きの手もあれば能く考へらるべし。

○角 落

上手七二飛の廻り、下手四八角早繰り

- △六二銀 ▲七六歩 △五四歩 ▲五六歩 △八四歩 ▲七八銀 △六四歩
- ▲六六歩 △七二金 ▲六七銀 △五二金 ▲七八飛 △八五歩 ▲七七角
- △九四歩 ▲九六歩 △七四歩 ▲四八玉 △六三金右 ▲三八玉 △五三銀
- ▲五八金左 △四二銀上 ▲二八玉 △五二玉 ▲三八銀 △四四歩 ▲四六歩

(面局の金八三) 圖一

	九	八	七	六	五	四	三	二	一
▲	桂							桂	▲
▲			飛			銀			▲
				金	銀	王		歩	
	歩		銀		歩	歩	歩		歩
		歩	歩	歩					
	歩				歩	歩	歩	歩	歩
		歩						銀	
			飛		金	角	金	玉	
▲	香	桂						桂	▲

▲上  
▲下  
▲持駒

▲下  
▲持駒

- △三四歩 ▲三六歩 △一四歩
  - ▲一六歩 △七三金 ▲二六歩
  - △四三五 ▲二七銀 △八四金
  - ▲五九角 △七二飛 ▲四八角
  - △七五歩 ▲六五歩 △同歩
  - ▲七五歩 △七四歩 ▲七六銀
  - △七五歩 ▲同銀 △同金
  - ▲同飛 △七四銀 ▲七八飛
  - △七五歩 ▲三八金
- 此時六四銀と六四金との二種の指手あり。

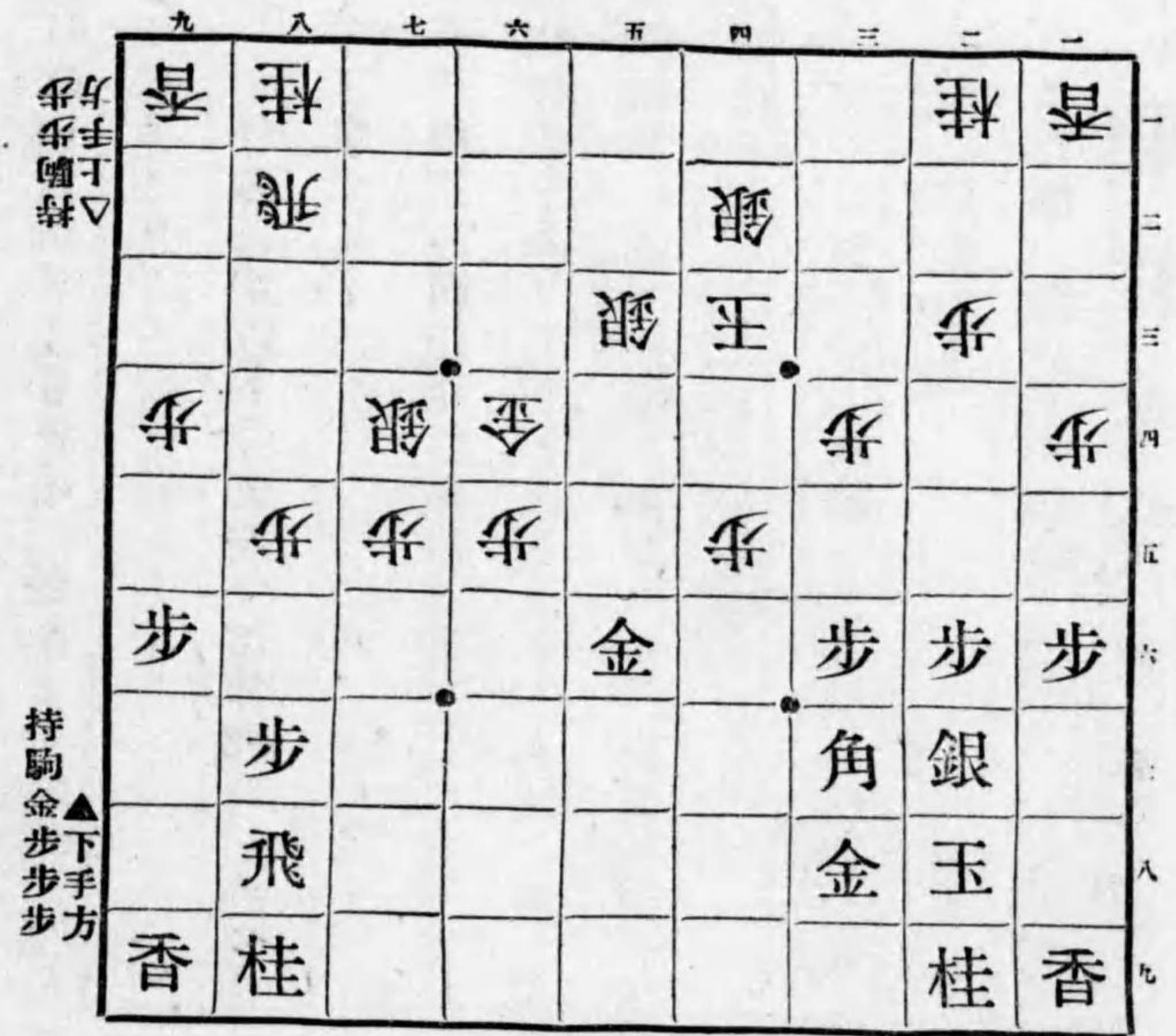
【註】本譜の如く上手方七二飛廻りの時は、すべて下手方四八角と上りて受けるべきであります。

【評】下手方敵が七五歩と突いて来た時、六五歩と突き七筋の位を保つことが肝要であります。

◇第一圖以下の指方 (其一) 上手方

- △六四銀 ▲二五歩 △五五歩 ▲同歩 △五二飛 ▲四五歩 △三三銀
  - ▲四四歩 △同銀 ▲四五歩打 △五五銀右 ▲五六歩打 △同銀 ▲二六角
- 此岐れとなる時は下手方優勢である。
- 【評】下手方四筋から攻勢を探り角の活動を計り敵飛車の活動を妨げる方策を計りし手段は妙味あり。
- ◇第一圖以下の指方 (其二、前章の變化八二飛戻り)
- △六四金 ▲四七金左 △八二飛 ▲八八飛 △五五歩 ▲三七角 △五六歩

(面局の金六五) 圖二



▲六五歩△同 歩▲五六金  
○此時三三挂と六二飛との二種の指手あり。

【評】 下手方角を三七へ上り四五歩と突き捨て角筋を飛車に狙ひ金を五六に進め攻勢を採りし手段は面白し。

◇第二圖以下の指方 (其一) 上手方

- △三三挂 ▲五四歩△同 玉
- ▲五五金△六三玉 ▲五四歩

わかりやすき 將棋の覺え方 終

○此岐れにては下手方優勢である。  
【評】 下手方五四歩打は妙味あり。

◇第二圖以下の指方 (其二) 上手方

- △六二飛 ▲五四歩打 △四四銀 ▲五五金打 △六三銀 ▲四四金 △同 玉
  - ▲五三銀打 △同 銀 ▲四五金
- 此岐れにては下手方勝なり。

317  
1742

昭和三年六月二日印刷  
昭和三年六月五日發行

【定價金五拾錢】  
(郵稅六錢)

不許複製  
將棋の覺え方

きすやりかわ  
方え覺の棋將

編者 帝都將棋俱樂部

發行者 關宗一郎  
東京市下谷區仲御徒町一丁目六番地

印刷者 平賀久吉  
東京市神田區仲猿樂町十番地

發行所

東京市下谷區仲御徒町一丁目六番地  
由盛閣出版部  
振替東京三五八九八番

終